

5年の 歩み



5年の歩み

財団法人 札幌市青少年婦人活動協会

ごあいさつ



財団法人札幌市青少年婦人活動協会
理事長 杉内 健男



当協会が設立されてから、早くも5年余りの歳月が流れました。

協会の業務は、その名が示すように動的要素が強く、日ごろは各種行事の実施や準備作業などに追われがちで、事後の整理や記録の集約が必ずしも十分でないらみがありました。そこで、5年という節目を迎えたのを機会に、これまでの歩みを振り返って、その実績を総括し、今後の運営に備えることといたしました。

協会は札幌市の青少年・婦人行政の一翼を担って、その健全育成、文化教養の向上と社会参加推進のための事業を行っておりますが、その拠点ともいえるべき青少年センター、婦人文化センターの運営管理を市から受託し、さらに滝野自然学園、勤労青少年ホーム、石山青少年会館、中島天文台等に指導員を派遣し、その管理補助にあたっております。

幸いこれらの業務のいずれもが、おおむね順調に推移し、今日に及んでおります。このことは、市長をはじめ市関係者の深い御理解と御指導によるものであり、また、協会運営のために種々お力添えをいただいている多くの方々のお陰によるものであります。この機会に衷心より謝意を表したいと存じます。

さて、本年は国際青年年であり、国連婦人の十年の最終年にあたる格別意義の深い年であります。

役職員一同あらためてその責務の重大さに思いをいたし、今後一層社会のニーズに対応した的確な運営を期するよう、決意を新たにしているところであります。

各位の倍旧の御支援と御鞭撻をお願いしてやみません。



お祝いのことば



札幌市長 板垣 武 四

昭和55年4月に、それまでの札幌グループ・ワーク協会を発展的に継承する形で、青少年婦人活動協会が市民の強い要請に応じて設立されてから、本年度で満5年を迎えられたことをうかがい、心からお喜び申し上げます。

この5年間、活動協会は青少年婦人を中心とするグループ活動の振興と専門指導者の養成に努められ、青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の促進に大きく貢献された実績は、枚挙にいとまがありません。中でも、婦人文化センターと青少年センターの完成と同時にその管理運営を引き受けられるとともに各種センター事業を精力的に展開され、また、子ども会リーダーの養成やお母さんサークル活動の推進などグループ活動の拠点として着々とその成果を収めているところであります。

このように本市の青少年婦人対策の推進にあたって活動協会が重要な役割を果たしておりますことは、栃内理事長をはじめとする活動協会役職員の方々の献身的な御努力に負うところが非常に大きいものであり、心から感謝申し上げますとともに深く敬意を表するものであります。

申すまでもなく、現在、青少年の非行問題とその対策は重要な国民的課題となっており、また、男女平等の実現等の前に横たわる諸問題に対する対策も緊要な行政課題となっており、さらに真剣な取り組みが望まれております。

こうした中で、本市においても青少年問題・婦人問題に対する意識の高揚を図り、さらにきめ細かな行政施策を推進してまいりたいと決意を新たにしておりますが、活動協会の使命も従来にも増してますます重要なものとなってきております。

今年は折しも国際青年年であるとともに国連婦人の十年最終年であります。次代を担う青少年を健全に育成し、次代を担う生命を生み育て、社会の半分を構成する婦人の社会参加を促進することは、まさしく21世紀の未来につながる夢あふれる事業であり、この画期的な事業を担当できる喜びを共にかみ締めたいと思います。

この未来につながる事業の達成のために、この5年間の貴重な経験を跳躍台として今後とも御活躍いただきますよう御期待申し上げますとともに、貴協会のますますの御発展を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

街のなかのどこかに
ぼんやりとしている子どもがいたら そっと笑顔を届けたい
暮れてゆく街のなかを
さすらっている若者がいたら 握り合う手を差しのべたい
日々のくらしのなかで
空しさを感じるお母さんがいたら おしゃべりの声を聞かせたい
この街のなかで
生きてゆこうとする人々に
どうぞ伝えてください
私たちのことを



目 次

あいさつ	財団法人札幌市青少年婦人活動協会 理事長 枳 内 健 男
お祝いのことば	札幌市長 板 垣 武 四
協会設立前史	9
1. 札幌ユース・ワーカー協会の設立	9
2. 札幌ユース・ワーカー協会の活動	10
3. 札幌グループ・ワーク協会の設立	11
4. 財団法人札幌市青少年婦人活動協会誕生の経緯	12
協会5年のあゆみ	13
自主事業	18
1. みどりとおそぼう自然学園	19
2. じゃがいもキャンプ—家族のふれあい—	21
3. アウトドア・スクール—中学生キャンプ—	23
4. 遊習塾—リトルキャンプ—	25
5. 在宅肢体不自由児キャンプ	27
6. 道新夏休み健康村	29
7. 道新冬休み健康村	31
8. 道新春休み健康村	33
9. グループ・ワーカー養成講座 —札幌市青少年指導者養成講座—	35
指導事業	40
1. 青少年婦人活動指導事業	41
2. 勤労青少年ホーム等への指導員派遣	53
施設管理事業	56
1. 札幌市青少年センター	57
2. 札幌市婦人文化センター	61
3. 札幌市青少年レクリエーションセンター	69
4. 札幌市天文台	70

5. 札幌市滝野自然学園	71
財団法人札幌市青少年婦人活動協会	74
●組織図	74
●財団法人とは	74
●理事会及び評議員会等に関する事項	75
●歴代役員評議員名簿	78
●職員名簿	81
●旧職員名簿	83
●5年間の予算推移	85
●寄附行為	87
5周年記念誌発行に寄せて	91
●派手さをてらうことなく	
札幌市青少年問題研究所 次長 板垣 弥之助	91
●5周年をひとつの節目として	
札幌市豊平区市民課 市民課長 関 堂 安 司	91
●長いかわり	
札幌市婦人文化センター 館長 小野寺 奈緒美	92
あ と が き	93

協会設立前史

財団法人札幌市青少年婦人活動協会

常務理事 佐々木 順



1 札幌ユース・ワーカー協会の設立

昭和48年12月、札幌ユース・ワーカー協会が設立されました。

「札幌市内における児童・青少年の豊かな生活を高めるために必要なグループ活動、レクリエーション活動を振興する」（同協会設立時会則）ため、「札幌市内及び近郊の児童青少年活動に専門的な立場で参画―指導・助言―している者」（同会則）によって組織されたもので、社会福祉活動や青少年活動の若年の指導者などがメンバーとなりました。

札幌市内における地域子ども会活動や青年サークル活動をリード・アップしようとするもので、メンバーの全員は専門的な知識・技術と長い活動経験を有していることが特色でした。

昭和49年1月、札幌市厚生局青少年部（現、市民局青少年婦人部）と協力して、雪中実験キャンプを実施しました。

グループ活動に最も効果的なプログラムとしてのキャンピングの冬季間における可能性を追求することが目的でした。冬季間のキャンピングは全国的にも実例がなくメンバーはミーティングを重ねて準備を進めました。

実験なのだから最も条件の悪い時期に、という全員の意見で同年1月18日から20日まで、喜茂別町の中山峠キャンプ場（夏季用）で実験しました。

マイナス20度の気温の中で星空にキラキラとこぼれる細氷現象の美しさ、完成したイグルーの中のキャンドルの幻想的な美しさ、撤収時の猛吹雪の中で残り少なくなった食糧と凍ってしまった半煮え飯とで、メンバーの一人が創作した雑炊は今も語り草となっています。

北海道における冬季キャンプは関係者の間に大きな関心を抱かせることに至りました。

そしてまた、このキャンピングにおける生活はリーダーシップのトレーニングとしてのプログラムとしては最大の効果があるということが、メンバー全員の結論となり、昭和49年冬季以来、地域子ども会リーダー研修の一環として定着しました。

ただ、参加者を限定しなければならないことが隘路となっていましたが、ドン・ガパチョ村キャンプの開始と共に「冬のドンガバ村」として発展しました。



（雪中実験キャンプ「イグルーづくり」）

2 札幌ユース・ワーカー協会の活動

昭和49年度、協会の活動は活発になりました。

子ども会のシニア・ジュニアリーダー研修の企画・指導、青年サークルや婦人サークルのリーダー研修の指導、札幌市野外活動指導員研修（札幌市教育委員会主催）への協力、子ども会、青年サークルリーダーの研修旅行の指導などが主要な活動となりました。

昭和50年、51年、52年と活動内容はますます活発化し、多様化してゆきました。

～まむしキャンプ、といわれた離島キャンプ、全道勤労青少年ジャンボリー、新一年生お母さんのつどい全市交流会、勤労青少年年越しのつどい、仲よし子ども館指導員研修、子ども会まつり、先生のためのキャンプ研修会、青年・婦人ボランティア研修会～

枚挙にいとまなし、という表現が適切なくらいの活動が展開され近隣の市町村からも子ども会リーダーの研修に協力を求められ、現在も各地、各

地域で実施されている行事・活動の祖型を創りあげてきました。

札幌ユース・ワーカー協会は、キャンピングやレクリエーションを普及しようとしたのではありません。それらが、グループやサークルのリーダーシップのトレーニングに不可欠なプログラムであることを信じて疑わなかったのです。

5年間にわたる協会の活動は、子ども会のリーダーたち、青年や婦人のサークル・リーダーたちと共に成長しました。

そして、もうひとつ記憶されなければならないことは、行政機関と民間団体の組織的協力関係の典型的形態を成立せしめることができたことです。

このことは、札幌市と札幌市教育委員会の理解というよりは、むしろ友情と呼ぶにふさわしい協会に対する支援でもありました。



(離島キャンプ「手作りイカダにのって」)



(地域子ども会シニア・リーダー研修
「ドン・ガバチョ村開拓風景」)

3. 札幌グループ・ワーク協会の設立

昭和53年の3月、札幌市教育委員会から札幌ユース・ワーカー協会に対して重大な提案がなされました。

滝野自然学園（南区滝野）の管理・運営を委託したい、という内容でした。

協会は協議を続けるなかで、受託の方向が認識され始めるとともに大きな問題を発見しました。

受託するとすれば、管理・運営に必要な人員3人は、札幌市青少年部に嘱託の身分で青少年指導員として勤務している協会の幹事3名しか該当する者はなかったのです。

他のメンバーはそれぞれの専門的立場を保有していました。そこで、札幌市青少年部と札幌市教育委員会社会教育課と協会の三者による協議がなされ、札幌市青少年部も事業の企画・指導を協会に委託するという方向が打ち出され、協会は発展的解散を行い、札幌グループ・ワーク協会として新発足することになりました。

札幌ユース・ワーカー協会に寄せられた両行政機関の友情ともいえる理解は、この時に大きな花を咲かせたというべきでしょう。

昭和53年5月、札幌グループ・ワーク協会は、「青少年の健全育成あるいは青少年・婦人の社会参加は、参加する個人の主体性の確立を前提とするグループ活動が、その根幹に据えられるべきであります。そして、そうした活動を広く掘り起こし、永続的な運動へと展開させるためには、活動するメンバー一人ひとりの深い結びつき、豊かな相互信頼を基調とする活動として内面化され、内省化される必要があります、私たちは正にこの点にグループ・ワークの手法が導入され駆使されるべき重要な分野があると信じます。」

「したがって、私たちはグループ活動や野外活動あるいはレクリエーションを単なる娯楽的な余暇活動とする解釈を止揚して、個人の主体性を確立し、創造性を養い、連帯感を深め、明るく豊かな社会を建設するための活動として捉え、その意義を普及、確立するとともに、その活動に寄与しようとするものであります。」（札幌グループ・ワーク協会設立趣意書より）という自らの理念を明確にして、新しい旅立ちをしました。



（全道勤労青少年ジャンボリー「丸太切り」）



（勤労青少年年越しのつどい「もちつき」）

4 財団法人札幌市青少年婦人活動協会誕生の経緯

協会の活動が飛躍的に発展してゆくとともに、協会のメンバー自身の内部にひとつの問題意識が生まれ始めました。

それは、行政機関からの委託が徐々に増加し始め、道内各地からも招かれるようになりましたが、札幌グループ・ワーク協会が任意団体のため、協会に対して支出される委託費が公費の支出であるにもかかわらず、協会自身の社会的責任を明確にしているとはいえない難いことでした。

もちろん、受領する委託費等については私心なく処理されていたことは、当時も今も協会メンバーの誇りのひとつといえますが、やはり自らの問題意識を否定することはできませんでした。

昭和54年3月、札幌市青少年問題協議会から札幌市長及び札幌市教育委員会委員長に対して「青少年育成に関する当面の対策について」の建議がなされました。

この建議は、その内容と表現において現在も高く評価されていますが、特に重要な点は、グループ活動専門指導者（グループ・ワーカー）の確保を明確に提言していることでした。

在来の指導者は、いわば有志と呼ばれる奉仕性の強い活動とされてきましたが、その身分保障の確立と組織化を進めながら、専門指導者の養成をも図るべきである、という画期的な提言でした。

建議を受けた札幌市と札幌市教育委員会は、任意団体でありながら公的な支援のもとに青少年・婦人のグループ、サークル活動に専門的立場で活動を展開している札幌グループ・ワーク協会と協議を開始しました。

札幌グループ・ワーク協会も内包している問題意識によって、全体的な運営方針を模索している状況の中で、法人化の可能性を検討しようとしている段階でありました。

◀設立の経過▶

昭和54年11月19日

市長・助役会議において方針決定

昭和55年2月28日

設立会を市経済センターで行う(出席者15名)

同、3月11日

北海道教育委員会に設立許可申請書提出
(北海道教育庁管理部総務課)

同、3月27日

第1回定例市議会において出損金10,000千円議決

同、4月1日

北海道教育委員会において法人の設立許可業務を開始

◀設立趣意書▶

札幌市は、明治2年創建以来110余年を経過した現在、先人のたゆまない努力により、目覚ましい発展をとげ、昭和54年11月には、人口において神戸市を追い越し、全国第6位の大都市に成長したところである。

この札幌市の将来は、若い行動力を持つ青少年とその青少年をはぐくみ育てる婦人の力に負うところ大であるが、現今の青少年の実態をみると、非行や自殺の多発等必ずしも楽観を許さない状況にある。

このことから、青少年にあっては、心身の鍛錬に励み先人に負けない開拓精神を持って、郷土札幌市の発展に寄与するよう、また、婦人にあっては、家庭教育の重要性を十分認識するとともに、ボランティア活動等を通して人情あふれる地域社会の確立に寄与するよう期待するところである。この種の活動を支える最も重要な要素は、グループ活動に関する専門性を具備し、かつ、実践的に活動できる専門指導者(グループ・ワーカー)の確保であるが、この種指導者が現在本市において絶対的に不足している状況にある。

については、この種指導者を質量ともに安定的に確保するとともに、その身分保障等をも配慮し、もって官民一体となった活動を展開するため、札幌市青少年問題協議会の建議にのっとり、財団法人札幌市青少年婦人活動協会を設立し、青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の促進を図ろうとするものである。

昭和55年3月11日

財団法人札幌市青少年婦人活動協会

設立者

札幌市 代表 板垣武四

協会5年のあゆみ

◀昭和55年度▶

— 財団法人札幌市青少年婦人活動協会の設立 —

昭和55年4月に札幌市が札幌グループ・ワーク協会と密接な提携のもとに、青少年の健全育成等のために、グループ活動の指導に関して専門的知識を有し、かつ実践的活動のできる専門指導者(グループ・ワーカー)の確保を目指し設立された。

事務局長は札幌市より派遣。

また、同時に札幌市・札幌市教育委員会の委託を受け社会教育施設の管理補助業務(青少年レクリエーションセンター・滝野自然学園)及び指導員派遣業務(勤労青少年ホーム及び石山青少年会館)を行う。



(昭和55年第1回理事会・評議員会(設立))

— グループ・ワーカー養成講座開講 —

同年5月より、夏・冬期2～3泊の実習を含め年30回コースで、1年課程のグループ・ワーカー養成講座が開講、修了者は札幌市に登録される。

— 青年婦人海外研修派遣(道主催) —

昭和55年8月末～9月中旬まで、カナダおよびアメリカへ青年婦人海外研修事業に、指導主幹(相馬宏哉)を分団長として派遣する。

— 共催事業冬休み健康村の開始 —

昭和56年1月、北海道新聞社・道新観光との共催事業として、道新冬休み健康村、が道新羊蹄自然の家にて開始される。



(グループ・ワーカー養成講座の実習風景)

— レクリエーターの手引、の発行 —

地域・社会・職場・学校や様々なグループで活躍している方々の仲間づくりに役立つことと、レクリエーションリーダーとしての基本的なことがらをとりまとめ、ゲームとプログラムの手引書を発行する。



— 各種自主事業の開始 —

従来ของกลุ่ม・ワーク協会より行っていた事業をひきつづき開設して行う。

- ①じゃがいもキャンプ
- ②母と子のあそびの学校(年3コース)
- ③みどりとあそぼう自然学園(夏休み)
- ④在宅肢体不自由児キャンプ

※事業内容は自主事業を参照

※②については昭和57年2月より婦人文化センターで主催

◀ 昭和56年度 ▶

—— 札幌市天文台業務の受託 ——

昭和56年4月、札幌市教育委員会より天文台の管理補助業務の委託を受ける。

—— 共催事業夏休み健康村の開始 ——

昭和56年7月下旬～8月上旬、北海道新聞社・道新観光との共催事業として「道新夏休み健康村」が道新羊蹄自然の家にて、道立羊蹄青少年の森の豊かな自然の中で共同生活や野外活動を通して健康な体力づくりをする目的で開始される。

—— ポートランド市派遣団交流会企画・運営 ——

昭和56年8月、ポートランド市よりの派遣団と札幌市のさよならパーティーの企画・運営を行う。



(ポートランド市派遣団・札幌市さよならパーティー)

—— 札幌市子ども文化祭の一部分企画・運営 ——

昭和56年11月、札幌市子ども文化祭の1コーナー「あそびの広場」企画・運営を行う。



(子ども文化祭「あそびの広場」)

—— 札幌市婦人文化センターの業務の受託 ——

昭和56年11月(開館12月)、札幌市より婦人文化センターの運営管理の委託を受ける。

館長・次長は札幌市より派遣。

※事業内容は施設管理事業を参照

—— 札幌青少年センターの業務の受託 ——

昭和57年2月、札幌市より青少年センターの運営管理の委託を受ける。

館長は札幌市より派遣、当協会事務局長を兼務。

※事業内容は施設管理事業を参照

—— 協会事務局の移転 ——

札幌市青少年センター業務の受託と同じに、協会事務局を青少年センター内に移転する。

—— 共催事業春休み健康村の開始 ——

昭和57年3月、北海道新聞社・道新観光との共催事業として「道新春休み健康村」が道新羊蹄自然の家にて、羊蹄山ろくの雪の中で、共同生活をし、新しい友達を見つける目的で開始される。



(春休み健康村「凧あげ」)

◀昭和57年度▶

— 海洋少年団全国大会の一部分の企画・運営 —

昭和57年8月、海洋少年団全国大会「友情のつどい」の企画・運営を行う。



(海洋少年団全国大会「友情のつどい」)

— 厚真町・札幌市交歓キャンプの企画・運営 —

昭和57年8月、厚真町・札幌市交歓キャンプの企画・運営を行う。



(厚真町・札幌市交歓キャンプ)

— 札幌市新一年生10周年事業の受託 —

昭和57年9月、札幌市の新一年生10周年記念事業の企画・運営を行う。

◀昭和58年度▶

— 中学生キャンプの実施 —

昭和58年8月、4日間の日程で、移動キャンプを実験的に行う。

— 札幌市清掃部運動会の企画・運営の受託 —

昭和58年8月、札幌市清掃部「互助会」運動会の企画・運営を行う。

— u h b チャリティクリスマス子供劇場 —

昭和58年12月、u h b チャリティクリスマス子供劇場の企画・運営を行う。



(u h b チャリティクリスマス子供劇場)

◀昭和59年度▶

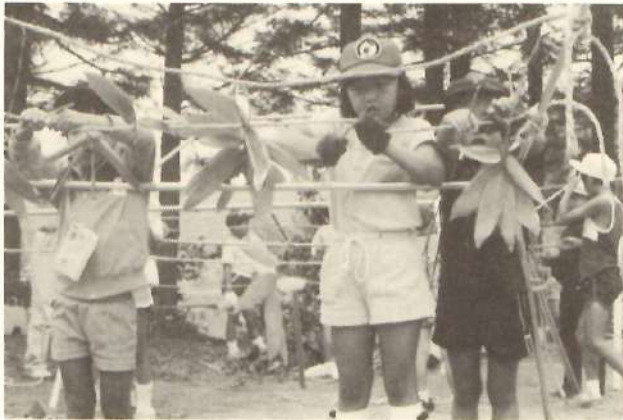
—— 児童福祉週間記念行事

こどものつどい

昭和59年4月、**こどものつどい**の実行委員会より、指導者派遣の要請があり、職員及びボランティアを派遣し、プログラム進行を行う。

—— 遊習塾 **リトルキャンプ** の開始 ——

昭和59年6月下旬～8月下旬の3カ月間に、親子が何回か集まり仲間作りをし、夏休みに子供たちだけで2泊3日のキャンプを行い、集団生活の大切さを知ってもらう目的で**リトルキャンプ**が開始される。



(遊習塾 **リトルキャンプ**)

—— **アウトドア・スクール**

中学生キャンプの開始

昭和59年8月、昨年の実験的に行った移動キャンプの体験を踏まえて、**アウトドア・スクール**という名称で開始される。



(**アウトドア・スクール** 中学生キャンプ)

—— こども サミット イン ほっかいどう ——

昭和59年11月、青年会議所主催の**こども サミットインほっかいどう**、と言う、全道レベルの子供たちの交流会の企画・運営を行う。



(こども サミット イン ほっかいどう)

—— 海外調査研究派遣 ——

昭和60年2月中旬～下旬まで、札幌市より受託を受け、海外における青少年婦人のグループやボランティア活動に関する調査研究のため、西ドイツ・フランス・イギリス等へ常務理事(佐々木 順)を派遣する。

自主事業

1. みどりとあそぼう自然学園
2. じゃがいもキャンプ
3. アウトドア・スクール (中学生キャンプ)
4. 遊習塾 (リトルキャンプ)
5. 在宅肢体不自由児キャンプ
6. 道新夏休み健康村
7. 道新冬休み健康村
8. 道新春休み健康村
9. グループ・ワーカー養成講座
(青少年指導者養成講座)

最近キャンプや遊びを通して得られる効果がいろいろと注目されてきています。少し前まではそれほど問題にされませんでした。なぜでしょうか。

キャンプや遊びそのものとは言いませんが、それに近いことを日々の生活の中で無意識のうちに、親子で体験してきました。しかし、現在の家庭を取り巻く環境を見ると、核家族化、学歴社会化、コンピューター遊びのはんらんなどで、時間的にも物理的にもキャンプや遊びに近いことどころか、家庭生活が豊かな人間性を育てるという本質的機能を失いつつあるのではないかと考えられています。

キャンプや遊びを通して得られる効果とはおおよそ次のようなことといわれています。

- (1) 健康な身体を育てる。
- (2) 自然や友達に触れ、新たな発見・生きた認識を育てる。
- (3) 未知の世界への挑戦により、創造性を育てる。
- (4) 他の人との協力、自分の役割を通して、社会性や協力性を育てる。
- (5) 自主的な行動を通して、自信・意欲を育てる。

私たちの協会はこのようなことを目標として、各種の事業を実施しています。



◆趣 旨

滝野の自然の中で、野外活動や炊事・あそびを
とおして協力し助けあい、多くの仲間とふれあ
いながら楽しくすごそうというものです。

期 間 夏休み期間中（7月下旬～8月上旬）
2泊3日 2コース
3泊4日 2コース

場 所 札幌市南区滝野自然学園
（札幌市南区滝野106番地）

対 象 者 小学校4～6年生
各コース 100名（4コース）

参 加 料 2泊3日コース 8,000円
(59年度) 3泊4日コース 11,000円



(炊さん風景)

——基本プログラム——

(2泊3日コース)

1日目		出 発 式	車 中	入 園 式	テ ィ ン グ ン	昼 食	活 動	夕 食	活 動	ミ ニ テ ィ ン グ	就 寝
2日目	起 床	朝 の 会	朝 食	清 掃	活 動	昼 食	活 動	活 動	活 動	ミ ニ テ ィ ン グ	就 寝
3日目	起 床	朝 の 会	活 動	清 掃	退 園 式	車 中	解 散 式				

(3泊4日コース)

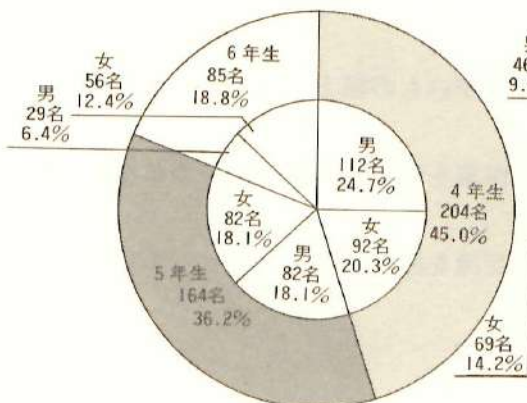
1日目		出 発 式	車 中	入 園 式	テ ィ ン グ ン	昼 食	活 動	夕 食	活 動	ミ ニ テ ィ ン グ	就 寝
2日目	起 床	朝 の 会	朝 食	清 掃	活 動	昼 食	活 動	活 動	活 動	ミ ニ テ ィ ン グ	就 寝
3日目	起 床	朝 の 会	活 動	活 動	昼 食	活 動	夕 食	活 動	活 動	ミ ニ テ ィ ン グ	就 寝
4日目	起 床	朝 の 会	朝 食	清 掃	活 動	退 園 式	車 中	解 散 式			

(主な活動例)

- グループ旗・プレート・ペンダント・Tシャツ作り
- グループファイヤー
- 水鉄ぼうあそび
- 炊さん
- キャンプファイヤー
- グループ旗・プレート・ペンダント・Tシャツ作り
- グループファイヤー
- ハイキング
- 水鉄ぼうあそび
- 炊さん
- テントイング
- キャンプファイヤー

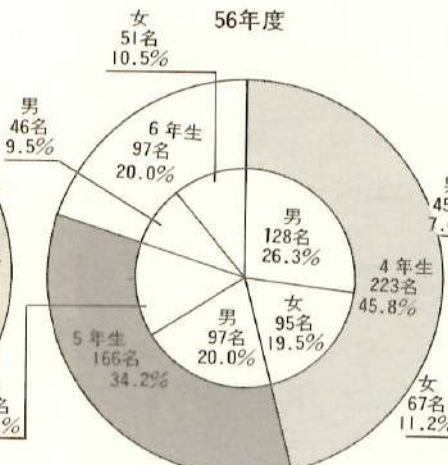
参加状況 55～59年度

55年度



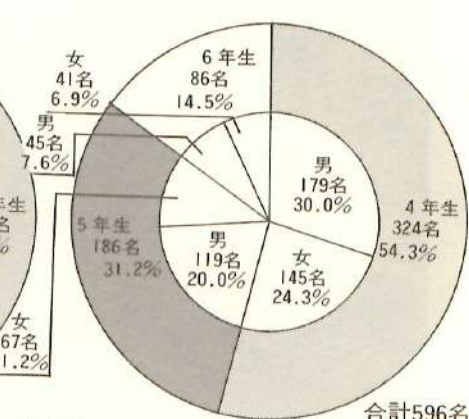
合計453名

56年度



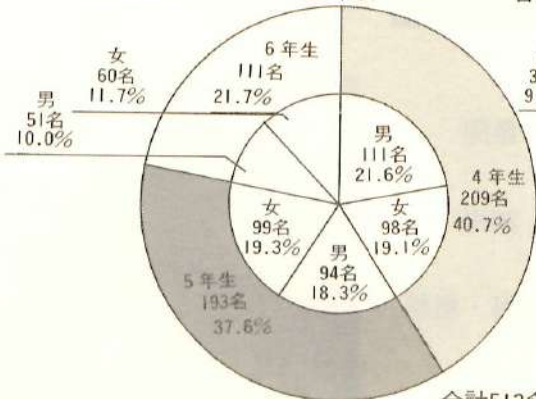
合計486名

57年度



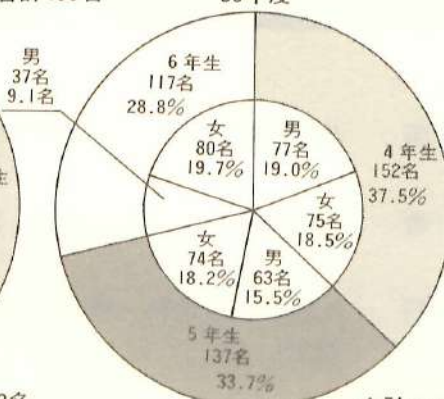
合計596名

58年度



合計513名

59年度



合計406名



(朝のつどい)



(水鉄ぼう作り)

ふりかえって

小学生を対象とするキャンプが最近いろいろな方面で実施されていますが、その要因は何なのでしょう。昔は家庭の中や地域の中でキャンプ同様のことが自然に行われていました。しかし、それが高度成長・受験戦争の激化に伴う社会状況の変化により、時間的・空間的にも個人や地域の手から離れてしまいました。協会でも55年度の財団設立時から小学校4～6年生対象のこの事業を実施してきました。冒頭で述べたように類似のキャンプがあちこちで実施されていますので、56～58年度にかけ、キャンプを「インディアン部落」という異次元の世界を設定して実施してみました。

子供たちも日常生活から掛け離れていることもあり、かなり興味を示してくれました。しかし、59年度からは本来のキャンプに戻し、趣旨の貫徹に力を入れることにしました。このキャンプを通して目につくことは、子供たちがキャンプ慣れし、同じようなプログラムでは満足しなくなっていることです。しかし、それに対し奇抜なプログラムを開発するのではなく、キャンプとは何かを今一度見直し、もう少し厳しいものにし、お楽しみ会的なキャンプというイメージを払しょくすることが必要ではないかと思っています。



◆趣 旨

自然の中で、ジャガイモの植え込みから収穫までという半年をかけた作業を通して、家族が一つになって汗を流し、家族の交流を深めるきっかけとしていただくというものです。

- 場 所** 札幌市南区滝野ファミリー農園
- 対 象 者** 札幌市内に居住する家族 30組
- 参 加 料** 8,500円(借地料・種芋・肥料・粗耕費等)
(59年度)
- 日 程**
- | | |
|---------|------|
| 事前説明会 | 5月上旬 |
| 植 え 込 み | 5月中旬 |
| 土 か け | 7月上旬 |
| 収 穫 | 9月下旬 |



(土かけ作業)

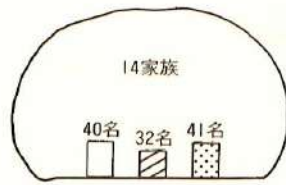
— 基本プログラム —

1 日 目		2 日 目									
(植え込み)	入園式	夕食	作業説明	レクリエーション	就寝	起床	朝の会	朝食	作業	昼食	退園式
	オリエンテーション										

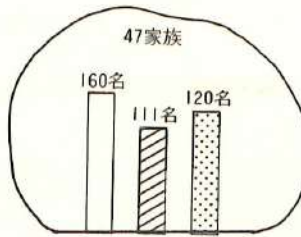
1 日 目		2 日 目									
(土かけ)	入園式	野炊	キャンプファイヤー	就寝	起床	朝の会	野炊	土かけ	昼食	退園式	
	オリエンテーション	外					外	業			

1 日 目		2 日 目									
(収 穫)	入園式	夕食	レクリエーション	就寝	起床	朝の会	朝食	収穫	収穫	退園式	
	オリエンテーション							業	パーティ		

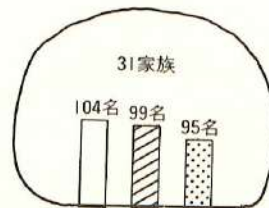
55年度



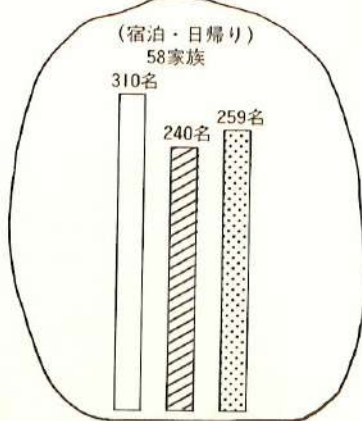
56年度



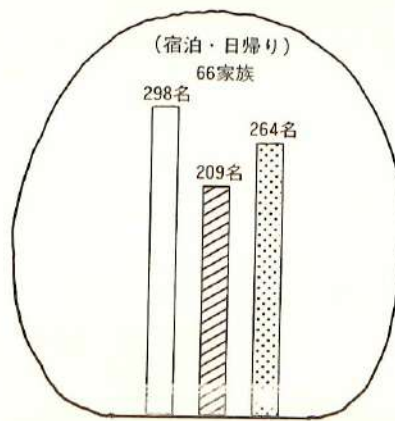
57年度



58年度



59年度



植え込み

 土かけ

 収穫



(土かけ作業)



(収穫後の一コマ)

ふりかえって

最近の私たちの生活をみても、土に親しんで何かを収穫するということがほとんどなくなってきています。そこで協会としても、郊外に出て自然や土に親しみ、じゃがいもを作り、その過程を通して家族の交流を深めていただきたいという趣旨で55年から実施してきました。56年以降は新聞・広報のPR効果もあって定員以上の応募があり、かなりの家族が抽選漏れになる状況となり、急きょ日帰りコースを設け参加希望者の便宣を図ってきました。しかしを宿泊・日帰り両コースを設けるこ

とにより、単にじゃがいもの収穫のみが目的という家族が年々増えてきて、このじゃがいもキャンプの趣旨にそぐわなくなってきました。したがってほかの家族との交流がだんだんと希薄になり、それに伴い畑の管理をみても、我家だけがよければという風潮がでてきました。そこで60年度からは、植え込み・土かけ・収穫キャンプ全てを宿泊にし、本来のじゃがいもキャンプを目指していきたいと思っています。



◆趣旨

キャンプという野外活動をテーマに、それを作り上げていく過程の中で、共同作業・共同生活を体験するとともに、個々の役割の重要性を知り、その中から協力し合うことの大切さや楽しさを感じていただくというものです。

- 期 間** 夏休み期間中（8月中3泊4日）
- 場 場** 札幌市青少年センター
札幌市南区滝野へ至る森林
- 対 象 者** 札幌市内の中学校1～3年生 50名
- 参 加 料** 12,000円（教材費・写真代・バス代
(59年度) ・キャンプ費用）
- 日 程**
- 第1回 開校式・オリエンテーション
 - 第2回 キャンプレクリエーション
 - 第3回 キャンプ技術Ⅰ
 - 第4回 キャンプ技術Ⅱ
 - 第5回 移動キャンプ（別項）
 - 第6回 まとめ
 - 第7回 閉校式

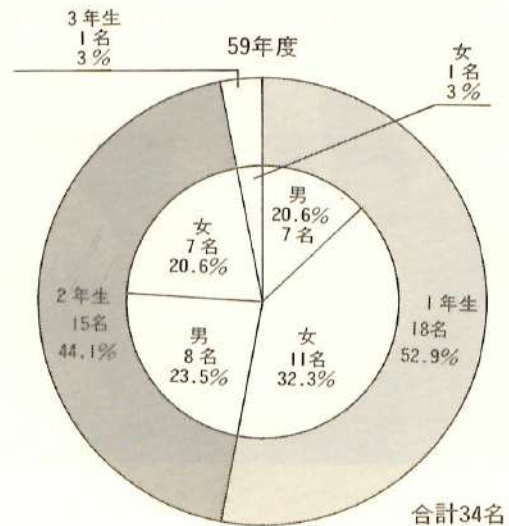
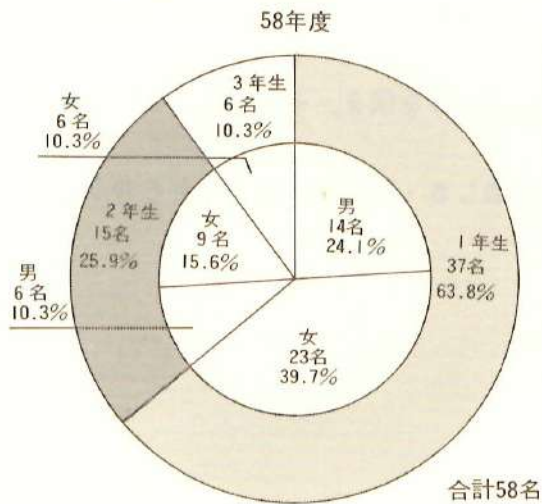


（キャンプ地での炊さん）

—移動キャンププログラム—

1日目	集 合	出 発 式	車 中	昼 食	移 動	テ 設 ン ト 営	夕 （ 自 炊 ） 食	グ ル ー プ フ	ミ ー テ ィ ン グ	就 寝	
2日目	起 床	朝 の つ ど い	朝 （ 自 炊 ） 食	テ ン ト 撤 収	移 動	昼 食	移 動	テ 設 ン ト 営	夕 （ 自 炊 ） 食	グ ル ー プ ム	就 寝
3日目	起 床	朝 の つ ど い	朝 （ 自 炊 ） 食	テ ン ト 撤 収	野 登 牛 山 山	昼 食	移 動	入 浴	夕 食	フ ア イ ヤ ー キ ャ ン プ	就 寝
4日目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	物 品 返 納	車 中	解 散 式					

参加状況 58～59年度



(移動風景)



(キャンプ地での食事)

ふりかえって

昨今の中学生を取り巻く環境は複雑であり、その根底には受験戦争があると言っても過言ではありません。小学校生活においては、キャンプを始めとして様々な集団活動があり、そこから協調心・人間愛などが培われてきました。それが中学生になると、家庭も学校も地域も、それを包括する都市までもが中学生からキャンプを遠ざけてしまっています。そこで協会は中学生対象のキャンプを企画し、58年度は事前研修1回で、小学生対象同様リーダーをつけて4日間の移動キャンプを実施しました。しかし、あまり効果があがらないので、59年度は全7回のスクール形式とし、グルーピングし、リーダーもつけず彼らの自主性を尊重し、移動キャンプも自分たちで動かなければ、食

・住の確保が難しいものとなりました。確かに今の中学生は自分のこともあまりできません。しかし、それはなってしまったのではなく、彼らを取り巻く環境がそうさせてしまったのではないのでしょうか。この中学生キャンプを通して、一人ひとりの中学生はすばらしい能力も力もあり、彼らに教えられる点が数多くあることを痛感しました。

今の私たちの社会はあまりにも時間に追われすぎています。広々とした空の下で、何もかも忘れて生活の原点に戻ってみることが、中学生をも含めて私たち一人ひとりに必要ではないでしょうか。青春は二度と来ない。そしてやりなおすこともできない。一日一日を大切にしたい。



◆趣 旨

学校という場を離れての集団での活動、特に、いろいろな遊びの広がりを与え、それを通しての友達同士のつながりの楽しさ・大切さを感じてもらおうというものです。

- 期 間 6月下旬～8月下旬
- 場 所 札幌市青少年センター
札幌市南区滝野自然学園
- 対 象 者 札幌市内の小学校1～3年生 60名
- 参 加 料 (59年度) 10,000円 (教材費・写真代・バス代・キャンプ費用)
- 日 程 第1回 自己紹介・オリエンテーション
第2回 集団あそび
第3回 集団あそび・キャンプにむけて
第4回 2泊3日のリトルキャンプ (別項)
第5回 まとめ・お別れ会



(自然学園での親子あそび)

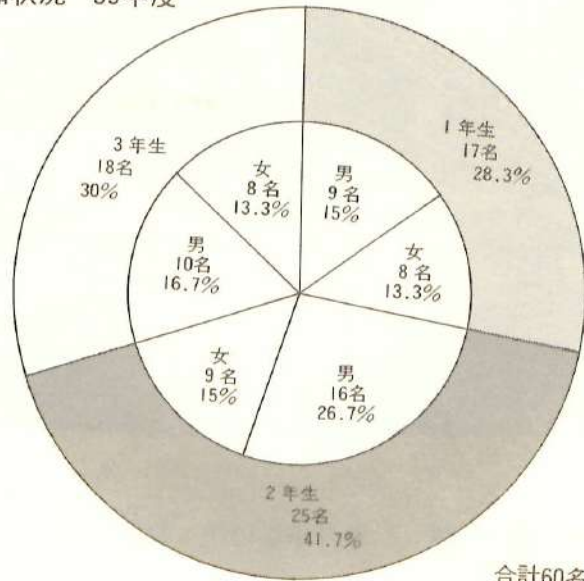
——リトルキャンププログラム——

1日目	集合	出発式	車中	オリエンテーション 入園式	昼食	おつくろい おうちを	全 体 あそび	夕食	たのび のつどい バーカ ジヨ ン と ラ ン タ ー シ ア タ ー	絵日記 ねる用意	おやすみ
2日目	おはよう	朝の会	朝食	ハイキング	(昼食)	シャワー おひるね タイム	夕食を つくろ う (バ ケ ー キ こ ね こ ね)	ファイヤー キャンプ	絵日記 ねる用意	おやすみ	
3日目	おはよう	朝の会	朝食	絵日記 グループ	退園式	車中	解散式				



(はっぴの家造り)

参加状況 59年度



合計60名



(こねこねパンケーキ作り)



(オリエンテーションでの一コマ)

ふりかえって

小学校低学年にもキャンプを！という声は、子を持つ親はもちろん、学校や地域社会やキャンプを手掛けている諸団体からもかなり以前からありました。しかし、それになかなか手をつけられなかったのが実情でした。その理由としては、あまり小さくはキャンプに耐えられない。また危険が伴うので指導面で問題がある。そして、社会性をまだ身につけていない低学年では集団生活は無理だろう。という大人からの一方的な考えからでした。しかし、協会が冒険的に行ってみますと、その反響は大きく、問い合わせが殺到したことはもちろん、定員30名のところ3倍以上もの応募があり、急ぎよ定員を倍にしたほどです。

プログラム内容も、数人のグループにグループ・ワークの経験豊かなリーダーを一人ずつつけ、一回限りのキャンプではなく、親子が何回か集まり仲間作り、遊びへの導入、協力などと徐々に進め、最後は子供たちだけのキャンプとしました。子供は決して小さな人間ではなく、小さな大人の感を強く持ちました。小さいながらも、仲間と協力し、努力し、耐えることも学びました。

このキャンプの輪を一気に広げていくことは無理ですが、小学校低学年の子供たち、そしてその親に対し、社会性・遊び・集団生活の大切さを知ってもらいたいと思っています。



◆趣 旨

野外での生活や活動は、私たちに新しい自分を発見したり、いろいろなことを学習する機会を与えてくれます。そこで、このキャンプでは子供たちとその家族のみなさんと一緒に、野外での飯ごう炊さんやハイキング、キャンプ・ファイヤー、いも掘りなどをして楽しくすごそうというものです。

日 時 9月中旬の土・日曜日（1泊2日）

場 所 札幌市南区滝野自然学園

対 象 者 肢体不自由児とその家族 20組

参 加 料 本人と家族1名分 3,500円
(59年度)

— 基本プログラム —

1日目	出発式	車中	（宅）もはま	滝へハイキング ますみの	（昼）食	じゃがいり	飯炊ごうん	キャンプファイヤー	就寝
-----	-----	----	--------	-----------------	------	-------	-------	-----------	----

2日目	起床	朝の会	朝食	ダンスの会 ゲームと	清掃	昼食	お別れ会	車中	解散式
-----	----	-----	----	---------------	----	----	------	----	-----



(じゃがいも掘り)



(鱒見の滝のハイキング)

参加状況 55～59年度

55年度



56年度



57年度



58年度



59年度



(炊さん「まき割り」)



(ハイキング途中の一コマ)

ふりかえって

昭和54年の国際児童年を記念して、協会の前身であるグループ・ワーク協会がこの事業を始めました。リーダーもスタッフもハンディキャップを持つ子供たちと接するのは初めてという人がほとんどです。そしてマンツーマンどころか、一家族に2～3人で対応するという中で、何をやるにも予想がつかず「えい、やっしまえ」という試行錯誤と実力行使(?)の世界でした。そんなリーダーやスタッフの努力以上に、子供たちのやってみようという気持ちはものすごいもので、どれだけ助けられたか分かりません。それを見守る両親や兄弟姉妹も、こんな力があつたのかと驚くと共に、家族が一つ

になって戸外に出て野外活動することのすばらしさを知りました。早くももう6年を重ねたこの事業の一番の思い出は、毎年雨にたたられていたことです。昭和56年には台風で自然学園の前のアシリベツ川があふれ、あわや陸の孤島かと思われるような状況の中で実施しました。しかし、現在では逆にそうした天気を払いのけるように年々参加者も増え、特に父親の参加が目立ち、家族同士あるいは参加者同士が一緒になって、時には汗を流し、時には炊事の煙に目をこすり、時には土の中のじゃがいもに驚きながら野外活動を一緒に楽しんでいます。



◆趣 旨

夏休みを利用して、子供たちが道立羊蹄青少年の森の豊かな自然に触れ、健康な体力づくりをするとともに、共同生活や野外活動を通して仕事の分担や役割を自主的に
行うことにより、創造性・自主性・協調性・仲間意識などを養うなど、自らの新鮮な体験によって健全な心身育成に役立てていただくというものです。

期 間 夏休み期間中（7月下旬～8月上旬）
3泊4日4コース

場 所 道新羊蹄自然の家
(虻田郡真狩村字社)

対 象 者 道内の小学校4～6年生
各コース 128名（4コース）

参 加 料 9,500円
(59年度)

共 催 者 北海道新聞社
道新観光



(キャンプファイヤー)

—基本プログラム—

1日目	出発式	車中	昼食	入村式	オリエンテーション	活動	夕食	活動	ミーティング	就寝		
2日目	起床	朝の会	清掃	朝食	活動	昼食	活動	活動	活動	ミーティング	就寝	
3日目	起床	朝の会	清掃	朝食	活動	昼食	活動	入浴	夕食	活動	ミーティング	就寝
4日目	起床	朝の会	朝食	朝食	活動	大清掃	昼食	退村式	車中	解散式		

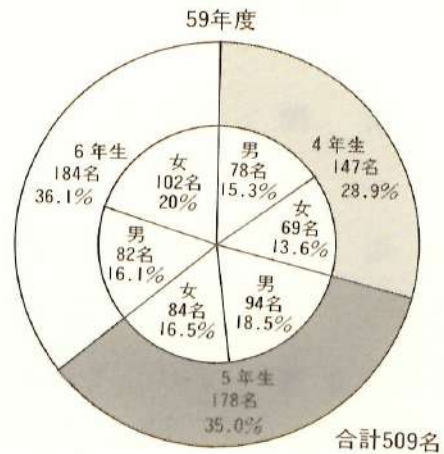
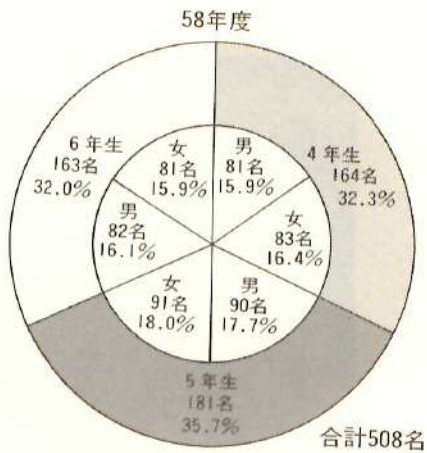
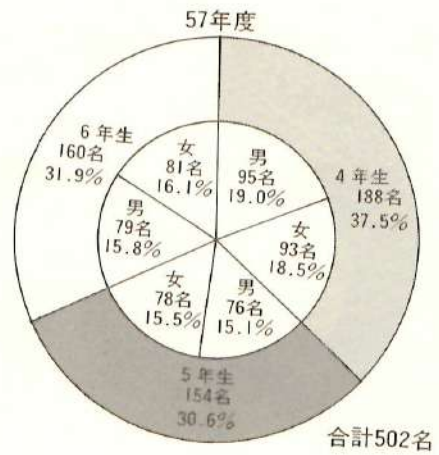
(主な活動例)

- フィールドアスレチック
- グループファイヤー
- 水鉄ぼうあそび
- 食りようハンティング
- 炊さん
- 山のぼり
- キャンプファイヤー

羊 蹄 山 に つ い て

羊蹄山は高さ1,893mのコニーデ式の死火山で、富士山に似たその美しさから「エゾ富士」とも呼ばれています。生成されたのは約一万年前で比較的新しい山で、その後6個の小火山が寄生的に噴出しました。中でも代表的なものは、火口北縁の北山、羊月湖、南コブ、南火口溶岩流があります。その頂上からは、洞爺湖、支笏湖はもとより、遠く日本海までもが眺望できます。

参加状況 56～59年度



(炊さん)



(羊蹄山をバックにはいポーズ
「フィールドアスレチック」)

ふりかえって

この事業は北海道新聞社・道新観光との共催で、協会はプログラム・指導の面を受け持っています。この道新健康村はほかのキャンプと違い、参加する子供たちが全道から集まってきます。ですから事前に全員集まって仲間作りをすることもできず、グループに解け込まずホームシックにかかる子供もいたりして、スタッフやリーダーも大変です。しかし、羊蹄山を始めとする身近で大きな自然、様々な諸施設を持つキャンプ場の中だけに、プログラムの展開も幅広く、生きた体験ができる

わけです。自然は私たちにいろいろなことを教えてくれるし、全道各地から集まる子供たちは、様々な知識や情報を提供してくれます。ただ一つ残念なことは、この大きなキャンプ場は一般の人にも解放されていることから専用というわけにはいかず、絶えず町のけんそうや日常生活の影響が入りこんでくることです。しかし、このキャンプで得た子供たち一人ひとりの実りは、それらを差し引いても十分余りあるものとなっています。



羊蹄山ろくの雄大な自然の中で、「カマクラづくり」などの雪中の遊びを通して、健康な体力づくりをするとともに、2泊3日の共同生活を行うことにより、協調性・自主性を養い、また新しい友達をつくり、「冬に遊ぶ楽しさ」を知ってもらおうというものです。

期 間 冬休み期間中（1月上旬～中旬）
2泊3日3コース

場 所 道新羊蹄自然の家
(虻田郡真狩村字社)

対 象 者 道内の小学校4～6年生
各コース 68名（3コース）

参 加 料 9,500円
(59年度)

共 催 者 北海道新聞社
道新観光



(タイヤチューブすべり)

— 基本プログラム —

1日目	出 発 式	車 中	昼 食	入 村 式	テ レ ビ シ ョ ウ	活 動	夕 食	活 動	ミ ニ テ レ ビ シ ョ ウ	就 寝	
2日目	起 床	朝 の 会	朝 食	清 掃	活 動	昼 食	活 動	夕 食	活 動	ミ ニ テ レ ビ シ ョ ウ	就 寝
3日目	起 床	朝 の 会	朝 食	活 動	大 清 掃	昼 食	退 村 式	車 中	解 散 式		

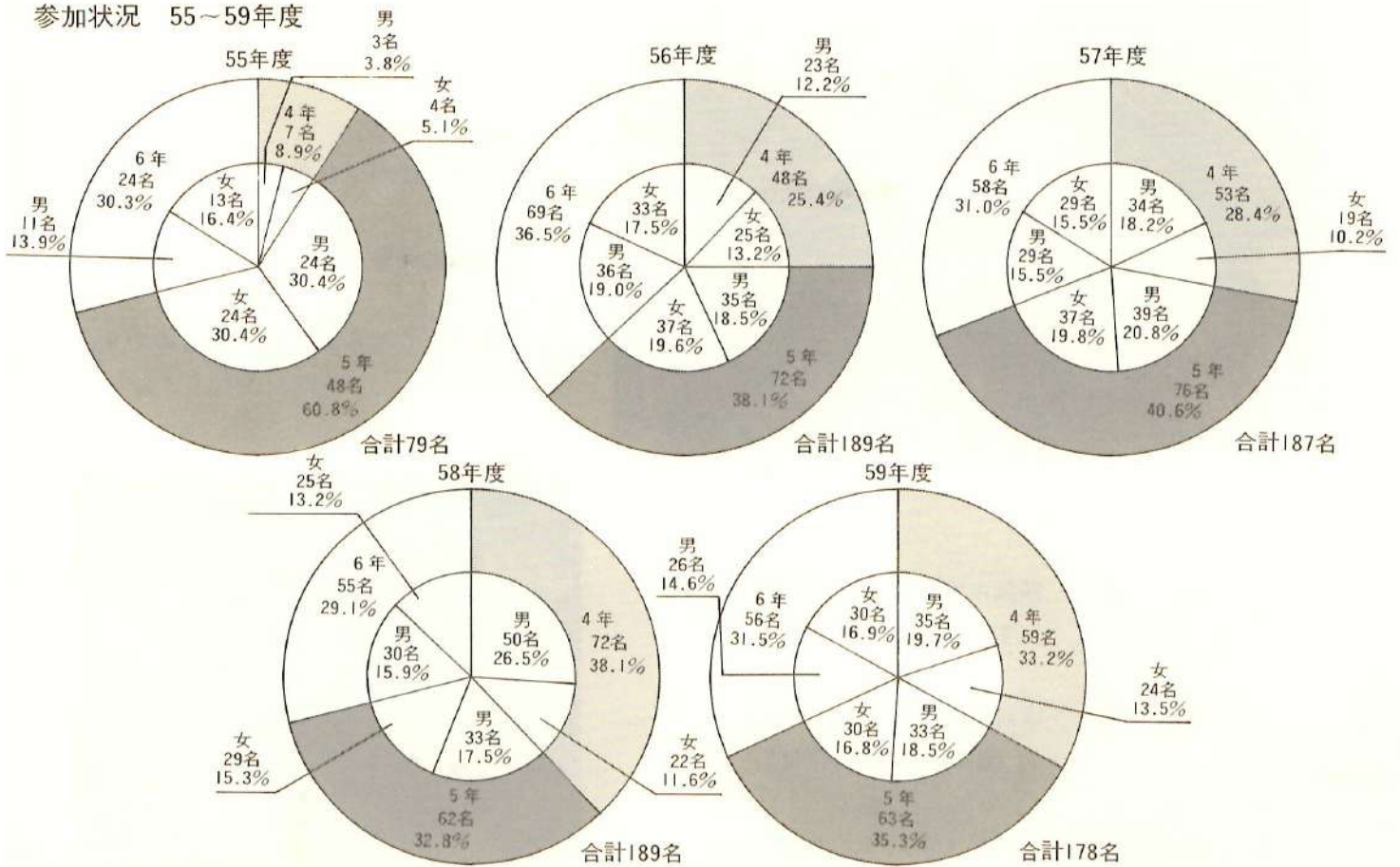
(主な活動例)

- 雪中レクリエーション
- 室内レクリエーション
- 雪洞づくり
- キャンドルサービス
- スタンプ

— 自 然 の 家 あ ん な い —

北海道を代表する秀峰羊蹄山を背に、大自然に囲まれた景勝の地に建てられた、「道新羊蹄自然の家」は北海道新聞社が発行部数100万部をこえたことを記念して建設されたものです。自然の家は2階建。外壁をカラ松材で覆われた山小屋風の建物で道立羊蹄青少年の森にあり、すぐ近くには夏季のテント生活を送れるキャンプ場などがあります。

参加状況 55～59年度



(キャンプ最後の夜のつどい)



(カンテラ作り)

ふりかえって

私たち道民は4カ月以上も雪と共に暮らしているのに、その雪をあまり生活に取り入れず、雪を友達にしていけないのではないのでしょうか。そこでこの道新冬休み健康村は、その雪をプログラムの中心に置いています。羊蹄山のふもとの柔らかく、きれいで、汚れのない雪原はまさにここに集まってくる子供たちそのものです。みんなで雪を集めての雪洞づくりでは、グループの協力が一番大切で、男の子も女の子も、4年生も6年生も一緒になって頑張ります。そして、その中での

キャンドルサービスは、神秘的であることはもちろん、子供たちを別世界へ連れて行ってくれます。また、羊蹄山を背景にしたタイヤチューブ滑りは圧巻で、スリルと楽しさで一杯です。真っ青な空、真っ白な雪、思わず鳥になってしまいます。しかし、自然は気まぐれで、一寸先も見えなくなるような吹雪のこともあります。そんな時こそグループの団結の見せどころで、声を掛け合ったり、手さぐりで友情を確かめ合ったり、寒い中でも活動を続けます。



◆趣 旨

羊蹄山ろくの中で、春の暖かい日差しを受けて思い切り身体を動かし、共同生活をする中で新しい友達を見つけ、遊ぶ楽しさを知ってもらおうというものです。

- 期 間** 春休み期間中（3月下旬）
2泊3日 2コース
- 場 所** 道新羊蹄自然の家
（虻田郡真狩村字社）
- 対 象 者** 道内の小学校4～6年生
各コース 64名（2コース）
- 参加料** 9,500円
（59年度）
- 共 催 者** 北海道新聞社
道新観光



（完成した雪洞でのキャンドルサービス）

—基本プログラム—

1日目	出発式	車中	昼食	入村式	オリエンテーション	活動	夕食	活動	ミーティング	就寝
2日目	起床	朝食	活動	昼食	活動	夕食	活動	ミーティング	就寝	
3日目	起床	朝食	活動	大清掃	昼食	退村式	車中	解散式		

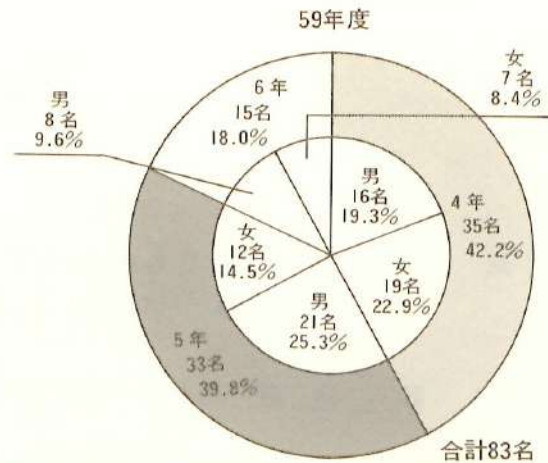
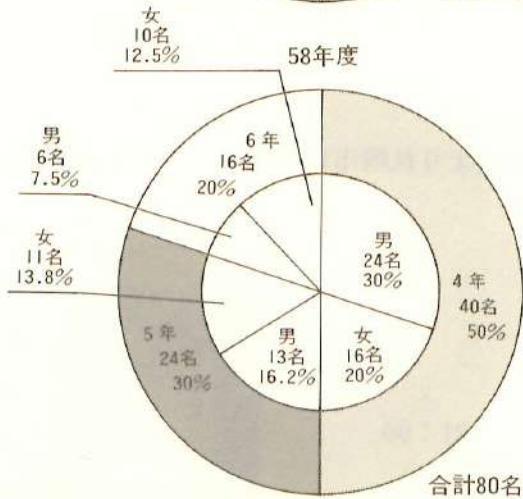
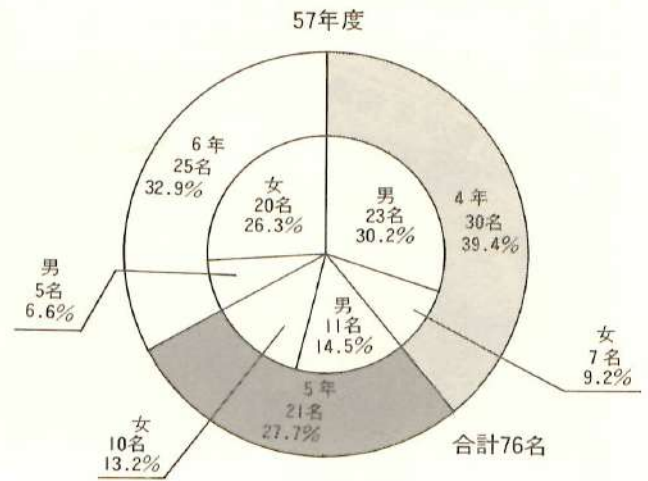
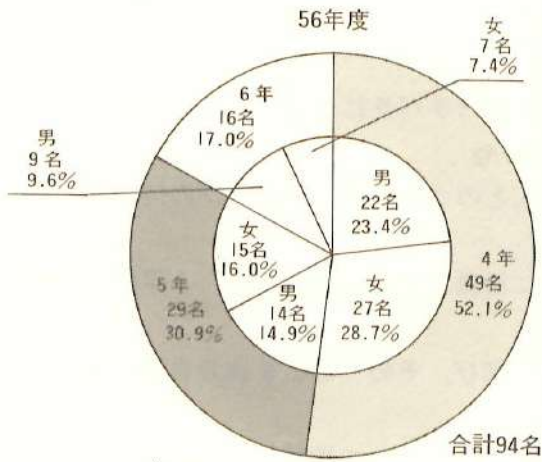
（主な活動例）

- 雪洞づくり
- 凧づくり
- 雪中レクリエーション
- キャンドルサービス
（雪洞の中で）

羊 蹄 青 少 年 の 森 に つ い て

道が昭和54年に、青少年に対する森林・林業の理解促進と心身の健全な育成を図ることを目的として作ったものです。森林学習展示館のほかに集合訓練広場、野外実習展示園、実習用苗畑、道木の森、生産の森、自然観察歩道、テニスなどのスポーツ施設、キャンプ場、レクリエーション広場などもあります。

参加状況 56～59年度



(凧づくり)



(雪洞完成のよろこび「開通式」)

ふりかえって

春の道新健康村は、自然が作り出す不思議で美しい世界です。雪は冬よりも高く積っているのに、日差しは柔らかく、雪解け水が春を告げながら道端を流れています。子供たちはそのような自然の中で、冬を惜しむかのようにキャンプを楽しんでいます。春の目玉プログラムはみんなで作った雪洞の中での幻想的なキャンドルサービス、そして何とんでも手作り凧を揚げることです。残雪を足下に真っ青な空に揚がる手作り凧は、まさに人

間バンザイ、真狩バンザイ、自然バンザイです。道新健康村を通して言えることは、子供たちが全道各地から来ていたり、札幌市内に住む、スタッフやリーダーが多いことから、子供同士やスタッフ・リーダーと子供との共通の話題が途切れてしまうことがあることです。でも2泊3日のうちにすっかり解け込み、会話以上の心の交流ができ、手紙や電話の交換へとその輪は広がっています。



◆趣旨

一人ひとりがバラバラになってきている今の社会の中で、人と人とのつながり、グループの持つ力、そして仲間と共に活動していく大切さを、1年間の講義・実習を通して学び、その「わ」を自分自身の生活の中で、家族・友人・仲間そして地域社会へと広げていこうと

いうものです。

(昭和57年度より札幌市青少年センター主催事業として実施)

- 期 間** 5月～翌年3月まで1年間
毎週木曜日 (18:30～21:00)
- 内 容** 講義 週1回 (毎週木曜日) 18:30～21:00
宿泊研修 年3回 1泊2日 (土・日曜日)
実習 土・日・祝日及び春・夏・冬休み3～5泊
- 会 場** 講義は札幌市青少年センター(但し宿泊研修・実習は他会場)
- 受講資格** 18～25歳未満の男女で宿泊研修・実習に参加可能な人
- 受講料** 無料 (但し宿泊研修については食費等実費負担)



(演習風景 ミスポート
レクリエーション)



グループ・ワークとは！

「グループ」は人間が人間として存在するために不可欠な、また魅力に富んだ存在です。そしてある目的をもった領域の中で、指導者がグループを意図的に活用していくための具体的な方法として「グループ・ワーク」があるのです。その歴史を簡単にみてみますと、19世紀後半の英国での産業革命の進展と共に生まれたスラム等を拠点としたセツルメント運動(貧民街・環境不良地域において、住民の意識の向上と地域の改善を目指した社会教育運動)として生まれた社会事業の方法として発展した面と、YMCAの運動を中心とした青少年教育の方法として発展した面とがあります。両者に共通して言えることは、農村的・血縁的・地縁的集団からバラバラにされて都市へ集まった人々を、グループ活動を通して結び合わせ、新しい民主社会の担い手として自主的・民主的な生活態度

修了者人数

(人)

年度 性別	55	56	57	58	59	計
男	10	12	4	12	11	49
女	17	15	18	30	26	106
計	27	27	22	42	37	155

ふりかえって

テレビ・ラジオのスイッチを押してみると、また新聞を開いてみると、若者の無軌道ぶり、女子中・高校生を中心とする青少年の非行、社会性の欠如、孤老の問題などがニュースにならない日はないと言っても過言ではありません。30年代の高度成長期の影響、すなわち消費は美德という物中心の考え方の中で、心の問題が置き忘れられたと指摘する人もいますが、根はもっと深いところにあるのではないのでしょうか。戦後一気に移入された自由主義のはん濫や、戦後育ちが社会の構成要素の大半を占めるに至り、彼らの子供たちが先ほどの諸病状を呈するに至っています。その原因は先述したただ単に心の問題に因るものだけではなく、社会構造そのものの変化に起因しているのではないのでしょうか。その状況はまさにグループ・ワークという社会運動が生まれてきたころと同じだという人もいます。そのような社会構造の変

化が派生させるものは、家族の崩壊、地域連帯感の崩壊といわれています。とりわけ核家族化・独居老人の問題などが顕著に社会構造の変化を物語っています。このような社会構造の変化の中で青少年センターとしても趣旨のところで述べたようなことからこの講座を実施しています。この講座に集まってくる若者も、いったいグループ・ワークって何なのだろうかと疑問を持ちながら青少年センターに足を運んでいたと思います。中には、はやりの講座、スクールと同じように机上の勉強と思った人も、また、何か資格が取れるのかと思った若者もいました。そして講座を開いた我々も基礎的理論の学習を続けました。なにしろこのような講座は全国的にも例がないので、協会が保有している専門的知識と経験を理論的に整備することから始めたのです。

教育や福祉の分野で著名な先生方を中心とした講師による講義と協会独自の演習・実習を重ねて行きました。

夏・冬・春の少年たちのキャンプ・リーダーを経験してグループ・ワークを少しずつ理解し始めました。

転勤や就職で講習を離れる者以外はほとんど100%の青年たちが講座を継続してきました。

開講以来満5年になりましたが、社会は増々その進むべき道を模索している現状にあり、一握りの若者であってもよいから、社会の小さなともしびになることを願って今日もこの講座は続きます。

を養おうとする社会運動だったのです。

それでは、「グループ・ワーク」について簡単にまとめてみますと。

- (1) グループ内での個人的相互作用を通して、個人の成長とグループの変容を図る教育的・治療的過程、方法である。
- (2) 目指す方向は、個人の社会性の向上、グループの社会的目標の拡充であり、究極的には地域社会の向上につながるものである。
- (3) メンバーの相互作用を、プログラム活動という媒介によって展開するグループ・ワーカーが存在する。
- (4) グループ・ワークに参加することはメンバーにとっては余暇における自発的参加による活動である。

昭和59年度 グループ・ワーカー養成講座（札幌市青少年指導者養成講座）

回数	月	日	講 義 名	講 師 名
1	5	17	開 講 式	札幌市青少年婦人活動協会 職 員
2		20	グループ演習	
3		24	グループ演習のまとめと評価	札幌市青少年婦人活動協会 常務理事 佐々木 順
4		26～27	一泊研修 レク実習・グループ・ワーク概論(1)	〃
5		31	一泊研修のまとめ プログラム理論	〃
6	6	7	札幌市の青少年婦人行政	札幌市市民局青少年婦人部 青少年主幹 西 塚 滋
7		14	あそびの創造	札幌市青少年婦人活動協会 指導主幹 相 馬 宏 哉
8		21	グループ・ワーク概論(2)	札幌市青少年婦人活動協会 常務理事 佐々木 順
9		23～24	一泊研修 キャンプの実技	札幌市青少年婦人活動協会 職 員
10		28	一泊研修のまとめと評価	札幌市青少年婦人活動協会 指導主幹 相 馬 宏 哉
11	7	5	キャンプ理論	札幌市青少年婦人活動協会 常務理事 佐々木 順
12		12	子供の基本的理解 — キャンプを中心に —	〃
13		19	夏季実習に向けて	札幌市青少年婦人活動協会 職 員
14	8	23	夏季実習のまとめ (1)	〃
15		30	〃 (2)	札幌市青少年婦人活動協会 常務理事 佐々木 順
16	9	6	児童心理学 (1)	札幌市こぐま座 加 藤 博
17		13	心 理 学 (1)	北海道教育大学 教 授 宮 本 実
18		20	〃 (2)	〃
19		27	地域の中で集団活動を進めていくための基本的課題	札幌市子ども会連絡協議会 会 長 細 川 照 市
20	10	4	発達心理学 (1)	北海道大学 教 授 三 宅 和 夫
21		11	〃 (2)	〃
22		18	〃 (3)	〃
23		25	グループ演習の計画	札幌市青少年婦人活動協会 職 員

24		28	グループ演習	
25		1	グループ演習の発表と評価	札幌市青少年婦人活動協会 常務理事 佐々木 順
26		10~11	一泊研修 スポーツ・レクリエーション、カウンセリング	北海道青少年会館 主任指導員 中津川 欣一 道立精神衛生センター相談部副部長 金田 迪代
27	11	15	交流会	
28		22	児童心理学 (2)	教育評論家 坪谷 京子
29		29	現代青年の意識と行動	札幌市青少年問題研究所 次 長 板垣 弥之助
30		6	新聞の読み方	北海道新聞社教育部 次 長 村松 良彦
31	12	13	冬季実習に向けて	札幌市青少年婦人活動協会 常務理事 佐々木 順
32		17	冬季実習のまとめ 社会教育概論	〃
33	1	24	北方文化 (1)	(財)北海道埋蔵文化財センター 常務理事 藤本 英夫
34		31	青年心理学	札幌市青少年婦人活動協会 専 門 員 川島 利子
35		7	地域社会論	札幌市青少年婦人活動協会 常務理事 佐々木 順
36		14	一年間のまとめ (1)	
37	2	21	北方文化 (2)	道都大学 助 教 授 倉本 龍彦
38		28	一年間のまとめ (2)	
39	3	7	修了式	

グループ・ワーカー養成講座に参加して

2年目 坂本勝裕

私が、グループ・ワーカー養成講座に参加した動機は、何か自分の固定された社会から動きのある地域社会へと抜け出して、自分の力を試してみたいという気持ちから始まりました。

一年前と比べると自分自身、大きく変わり地域社会に対する認識や人と人のふれあいというものを感じることが出来ました。

夏、冬のキャンプで、北海道の一部ではあるが自然に触れ、子供の無邪気な笑顔と素直さに、自分自身我れを忘れ、一心に子供たちと遊び、騒ぎ、衣食住を共にしたことは、大変良い経験を積むことが出来ました。また、各種講義では、身近な問題をテーマにしたカリキュラムで、学ぶことの尊さと思概念の認識を深めることが出来ました。そして、色々な人々と出会い、グループ活動を通じて、思考の違いや多種多様な意見や会話を聞くことが出来、自然に仲間が集まり、グループが生まれたことは、素晴らしいことだと思います。

今年から、2年目に入りますが、1年目で教えて頂いたことと体験を基礎にして、これを生かして、自分自身努力を重ねて、あらゆる分野で、ふれあいの「和」を広げていきたいと思っています。

最後に、人生の中で大切なことは、目標を持ち、実際に勇気を出して行動してみることです。そうすれば、新たな自分と違った正しい社会の認識を体験することが出来ると思います。(自衛官)

指 導 事 業

1. 青少年婦人活動指導事業

(1) 札幌市関係

ア. 年間契約分

イ. 随時契約分

(2) 札幌市以外の市・町・村

(3) その他

2. 勤労青少年ホーム等への指導員派遣

明日の札幌を担う青少年が、豊かな情操と優れた創造性、社会性を持ち、心身共にたくましい人間に育つことは、すべての市民の願いです。しかし、科学文化の発達に伴う今日の急激な社会情勢の変化は、青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼし、青少年をめぐる諸問題はますます複雑・多様化してきています。

私たち協会においても、それら全部に対して効果ある対応をすることは、非常に難しいことですが、実践的グループ・ワークを基盤に若者はもちろん、婦人、お年寄りに対しても幅広い活動を実施する努力をいたしております。

また札幌市でも、働く青少年や地域の子供たちの日々の自由な時間における憩いや、レクリエーション、クラブ活動、教養の向上等の健全な余暇活動のためや地域青少年活動の振興を図るための場として勤労青少年ホーム、青少年会館を設置しています。当協会ではグループ・ワークの専門的知識を有する指導員を派遣して、青少年のより良い環境づくりに励んでいます。

1. 青少年婦人活動指導事業（一覧表）

—— 昭和55年～59年度 ——

◀ 昭和55年度 ▶

事業名	期 日	参加数(人)
(1)札幌市関係	149回	13,705
ア. 年間契約分	62回	6,747
・シニア・リーダー研修	5/11・6/21～22・9/20～21・3/1 (4回)	610
・クリスマス・キャラバン	12/13・14・20・21 (16カ所)	—
・夏季キャンプ	(シニア) 7/26～8/1 (ジュニア) 8/3～11	973
・冬季キャンプ	1/9～12	57
・シニア・ジュニア国内研修	(シニア) 3/26～31 (ジュニア) 3/26～28	86
・育成者キャラバン	10/11～13	25
・のみの市	9/14	—
・青年リーダー研修	9/11～14・10/29～1/1 (2コース)	35
・青年リーダーズ・キャラバン	1/22～26	15
・青少年ジャンボリー	8/23～24	300
・仲よし子ども館母親学習会	7/1・6・9/3・7・10・10/3・6・7・2/14 (12カ所)	4,300
・婦人ボランティア・スクール	6/6・7～8・13・16・20・23・27・30・7/4 } (2コース)	315
・新一年生お母さんのつどい	10/17・18～19・24・27・31・1/7・10・14・17 } 10/4～5	31
イ. 随時契約分	87回	6,958
・札幌市職員研修	5/12・23・9/9・24・26・7/11・14・9/1・8・19 10/17・21・1/7・12/2・13・16・19・2/13・28・3/26 (20回)	683
・札幌市生活大学	5/19	200
・天文指導員研修	6/7	30
・札幌市消費モニター研修	2/26	60
・新一年生のお母さんのつどい 関係事業(市・各区)	5/15・6/28～29・7/30・8/12・9/14・2/5・3/10 (7回)	1,079
・婦人ボランティア・コーナー研修	9/16・3/6 (2回)	150
・婦人キャラバン	9/29～30	73
・ジュニア・リーダー研修	(北 区) 5/25 (白石区) 5/24～25・7/19～20・9/6～7・12/6～7・1/31～2/1・3/1 (豊平区) 5/18・6/28～29・1/8～9・1/24～25・3/8 (南 区) 5/31・7/12～13・11/15～16・1/17～18・3/21～22 (西 区) 5/25・7/5～6・1/1～3・11/16・1/31～2/1・3/15 (23回)	2,887
・南区シニア・リーダー研修	12/6～7	20
・子ども会育成者研修	5/17・6/20・26・7/12・14 (5回)	430
・南区育成委員と青年の語る会	3/13	50
・南区青年サークルリーダー研修	10/4～5	16
・アカデミー北区	5/8	100
・豊平区婦人リーダー研修	8/26	60
・南区民講座	8/29・9/5・12・19・26・10/3 (6回)	120
・豊平区教養講座	9/5・12・19・26・10/3・17 (6回)	90
・東区民講座	10/21・23・28・30・11/6 (5回)	100
・白石区寿大学	1/6	50

・東区年輪大学	$\frac{1}{5}$		60
・白石区もみじ台児童会館オープン行事	$\frac{1}{13}$		500
・南区民センター・サークル交流会	$\frac{2}{28}$		200
(2) 札幌市以外の市・町・村		10回	512
・55年度児童福祉週間記念行事 こどもの日のつどい	$\frac{5}{5}$		200
・北海道青年・婦人海外研修 (分団長派遣)	$\frac{8}{14} \sim \frac{9}{11}$		—
・道立青年の家初秋の自然に親しむつどい	$\frac{9}{6}$		20
・雪の学校	$\frac{1}{7} \sim 8$		70
・広島町親子ふれあい教室	$\frac{5}{7}$		32
・江別市少年団指導者講習	$\frac{7}{5}$		60
・岩見沢青年の家レクリエーション研修	$\frac{6}{13}$		30
・岩見沢青年の家冬の野外活動研修	$\frac{1}{7}$		56
・釧路市レク講習	$\frac{7}{24}$		24
・斜里町子ども会育成者研修	$\frac{6}{7} \sim 8$		20
(3) その他		28回	2,066
・町内会婦人部研修	$\frac{5}{30} \cdot \frac{2}{15} \cdot \frac{3}{9}$	(3回)	134
・家庭教育学級	$\frac{7}{18} \cdot \frac{10}{16}$	(2回)	35
・石山青少年会館むかしのあそび講習	$\frac{6}{21}$		60
・地域クリスマス会	$\frac{12}{13} \cdot 24 \cdot 25$	(3回)	247
・新川中央小地域ぐるみ子ども会	$\frac{12}{18}$		44
・東区民講座終了婦人サークル研修	$\frac{12}{11}$		20
・北広島高校清田地区PTA	$\frac{12}{1}$		30
・メダカ会スキー会	$\frac{1}{13} \sim 14$		38
・東札幌連合町内会リーダー研修	$\frac{2}{22}$		80
・藻岩地区母と子のつどい	$\frac{3}{15}$		100
・朝日新聞北海道支社家族親睦会	$\frac{5}{30}$		70
・道銀職員組合レクリーダー研修	$\frac{9}{6}$		40
・道銀組合学校	$\frac{10}{9}$		120
・日赤奉仕団研修	$\frac{10}{29} \cdot \frac{12}{3}$	(2回)	75
・釧路市連合町内会レク講習	$\frac{7}{23}$		28
・全道ホームヘルパー研修	$\frac{8}{19}$		60
・北海道地方BBS会員研修	$\frac{8}{23}$		20
・児童厚生員研修	$\frac{9}{2} \cdot 4 \cdot \frac{11}{13} \sim 14$	(3回)	155
・全道保母研究集会・交流会	$\frac{9}{27}$		650
・養護施設職員現任訓練	$\frac{10}{26}$		60
合 計		187回	16,283

◀昭和56年度▶

事業名	期 日	参加数(人)
(1) 札幌市関係	128回	20,444
ア. 年間契約分	33回	8,859
・シニア・リーダー研修	5/10・6/20～21・9/19～20・3/7 (4回)	658
・クリスマスキャラバン	11/28	35
・夏季キャンプ	7/26～31 (シニア) ・8/2～4 (ジュニア) (2回)	593
・冬季キャンプ	1/9～12	72
・シニア・ジュニア国内研修	1/26～31 (シニア) ・1/26～28 (ジュニア) (2回)	112
・子ども会育成者研修	10/18・10/31・11/1・11/6～8 (3回)	99
・子どもノミの市	9/13	
・青年リーダー研修	5/22～25・6/26～29 (2コース)	42
・青年リーダー合同研修	9/5～6・2/21 (2回)	58
・青年リーダースキャラバン	10/31～11/4	16
・仲よし子ども館母親学習会	9/24・7/1・5・13・9/3・10・10/2・5・6・3/6 (11カ所)	7,090
・婦人ボランティア・スクール	9/5・6～7・12・19・22・26・29・7/3・6 } 11/13・14～15・20・27・30・12/4・7・11 (2コース)	54
・新一年生お母さんのつどい —母と子のレク研修—	10/3～4	30
イ. 随時契約分	95回	11,585
・札幌市職員研修	6/1・16・7/13・8/19・9/7・10/13・11/12・12/4・3/1 (9回)	334
・札幌市窓口職員研修	7/23・2/9 (2回)	65
・札幌市観光バスガイド研修	5/1	35
・札幌市青少年科学館職員研修	2/8・9 (2回)	20
・札幌市消費生活学級	12/11	24
・札幌市生活大学	5/11	200
・父と子のキャンプ	8/29～30	19
・札幌市子ども文化祭	11/3	600
・ポートランド市派遣団関係	8/10～11・13 (2回)	229
・婦人キャラバン	9/21～22	65
・婦人ボランティア・ビューロー 研修	1/21・3/18 (2回)	154
・札幌市婦人交通指導員研修	1/18	64
・札幌市かしわ学園職員研修	5/14	10
・仲よし子ども館母親学習会講演会	10/2・5・6 (3回)	2,000
・新一年生お母さんのつどい関係 事業(市・各区)	5/9・6/27～28・7/31～8/1・9/13・10/25・12/2・1/25・2/9 (8回)	950
・移動天文台	6/3・4・7/25・26～28・8/1・20・21・27・28・29・9/12・22 (12回)	1,250
・ジュニア・リーダー研修	(北 区) 11/1・1/4 (白石区) 6/6～7・7/18～19・9/5～6・12/5～6・2/20～21 (豊平区) 5/24・6/27～28・8/30・11/7～8・1/30～31・3/21 (南 区) 5/17・7/11～12・10/3～4・11/14～15・1/23～24・3/20～21 (西 区) 5/23・7/11～12・9/5～6・26～27・11/29・2/6～7・3/13～14 (26回)	3,671

・シニア・リーダー研修	$\frac{4}{18}$ ～19 (南区)		35
・子ども会育成者研修 (各区)	$\frac{6}{9}$ ・ $\frac{11}{12}$ ・ $\frac{1}{2}$ ・ $\frac{12}{12}$ ・ $\frac{3}{6}$ ・14・ $\frac{3}{4}$	(7回)	745
・白石区婦人サークル交流会	$\frac{5}{22}$		130
・東区婦人リーダー研修	$\frac{10}{6}$ ～7		50
・婦人学級合同研修会	$\frac{11}{9}$ (西区)・ $\frac{12}{8}$ (南区)	(2回)	65
・白石区仲よし子ども館指導員研修	$\frac{6}{5}$		30
・北区安全運転管理者研修	$\frac{7}{24}$		70
・白石区子ぐまクラブ指導者研修	$\frac{2}{24}$		30
・東区部課長研修	$\frac{2}{16}$		40
・北区ヤングフェスティバル	$\frac{10}{24}$		35
・みなみ区ヤングカレッジ	$\frac{11}{13}$		25
・南区老人クラブ大会	$\frac{3}{16}$		450
・豊平区主催クリスマス会	$\frac{12}{12}$ ・19	(2回)	190
(2) 札幌市以外の市・町・村		9回	577
・北海道青年婦人国際交流センター会議	$\frac{4}{20}$ ・ $\frac{3}{15}$	(2回)	182
・公立保育園主任中堅保母研修会	$\frac{10}{16}$		35
・児童福祉週間記念行事子どもの日のつどい	$\frac{5}{5}$		90
・全道消防職員研修	$\frac{9}{2}$		120
・江別市子どもの日を祝う行事企画講習会	$\frac{4}{18}$		35
・石狩町少年団体育成指導者養成講習会	$\frac{5}{9}$		40
・岩見沢青年の家レクリエーション講習	$\frac{11}{28}$		40
・島牧村少年ふるさと学級	$\frac{11}{21}$		35
(3) その他		41回	1,721
・日赤奉仕団研修	$\frac{11}{5}$ ・11	(2回)	110
・家庭教育学級	$\frac{6}{18}$ ・ $\frac{2}{17}$	(2回)	83
・地域キャンプ (町内会・学校)	$\frac{8}{5}$ ・ $\frac{8}{12}$ ～13	(2回)	139
・地域クリスマス会	$\frac{12}{23}$		50
・勤労青少年ホームサークル研修	$\frac{6}{27}$ ・ $\frac{2}{24}$ ・27	(3回)	117
・豊平区バトンクラブ新年会	$\frac{1}{30}$		40
・青年ボランティア研修	$\frac{9}{27}$		14
・全道ボランティア活動研究集会	$\frac{10}{24}$		40
・養護施設職員現任訓練	$\frac{10}{26}$		36
・北海道地区BBSリーダー研修	$\frac{10}{24}$		35
・メダカ会スキー会	$\frac{1}{6}$ ～7		38
・生活学校運動全道集会	$\frac{2}{25}$		15
・北海道老人大学札幌校	$\frac{2}{27}$		80
・地域レクリエーション研修	$\frac{3}{26}$ (藻岩地区・滝野地区)	(2回)	114
・よい子の広場	$\frac{5}{27}$ ・ $\frac{6}{3}$ ・10・17・24・ $\frac{7}{1}$ ・8・15・ $\frac{8}{19}$ ・26・ $\frac{9}{2}$ ・9・16・24・30 ・ $\frac{10}{7}$	(16回)	498

・北海道結婚相談研究協議会	$\frac{7}{2} \sim 3$	150
・ライオンヘアーサロングループ 新入社員研修	$\frac{4}{20}$	40
・UHB レクバス	$\frac{10}{10} \sim 11$	30
・北陸銀行青年婦人部全道職員リ ーダー研修	$\frac{11}{15}$	66
・全郵政労組北海道支部レクリ ーダー研修	$\frac{2}{3}$	26
合 計		178回 22,742

◀昭和57年度▶

事業名	期 日	参加数(人)
(1) 札幌市関係	95回	19,640
ア. 年間契約分	31回	8,524
・シニア・リーダー研修	5/9・6/19～20・9/18～19・3/6 (4回)	796
・シニア・ジュニア国内研修	3/26～31 (シニア)・3/26～29 (ジュニア)	140
・シニア・リーダー修了者研修	7/1・3/6 (2回)	56
・夏季キャンプ	7/26～30 (シニア)・7/31～8/10 (ジュニア)	916
・クリスマスキャラバン事前研修	1/3	19
・冬季キャンプ	1/9～12	80
・青年リーダー研修	6/4～7・9/4～6・2/20 (3回)	71
・青年リーダー国内研修	10/30～11/3	18
・仲よし子ども館母親学習会	7/6・10・9/3・10・11・12・10/4・5・7・2/21 (2会場)	6,262
・新一年生お母さんのつどい母と子の一泊研修	10/2～3	27
・子ども会育成者研修	10/17・10/23～24・11/26～28 (3回)	139
イ. 随時契約分	64回	11,116
・ジュニア・リーダー研修	(北 区) 6/13・10/9～10・2/20 (白石区) 5/22～23・7/10～11・12/4～5・1/22～23 (豊平区) 5/23・7/3～4・11/13～14・1/29～30・3/20 (南 区) 5/16・6/26～27・10/9～10・11/7・1/6～8・3/12～13 (西 区) 5/23・7/10・9/4～5・11/14・2/12～13・3/12～13 (24回)	3,894
・シニア・リーダー研修	11/23 (白石区)	25
・シニア・リーダー修了者研修	4/28	36
・札幌市子どもノミの市	9/12	—
・札幌市子ども文化祭	11/3	632
・移動天文台	5/20・26・8/6・11・13 (5回)	575
・南区星をみる会	9/11	30
・北区宿泊して星をみる会	9/22	30
・ヤングフェスティバル・イン・サッポロ	9/26	250
・札幌市青年グループ・リーダーセミナー	3/15	60
・新一年生お母さんのつどい10周年交流会	9/23	3,000
・新一年生お母さんのつどい関係事業(市・各区)	9/16・24・9/12・11/24・12/11・2/10・25 (7回)	1,235
・子ども会育成者研修(各区)	5/29・10/27・11/10 (3回)	322
・中央区交通安全母子教室リーダー研修	10/29	27
・中央区つくし婦人学級講座	11/12	20
・消費生活学級代表者研修講座	12/13	20

・父と子のキャンプ	$\frac{9}{4} \sim 5$		84
・札幌市生活大学	$\frac{5}{13}$		250
・東区老人大学	$\frac{12}{9}$		100
・札幌市野外活動指導員研修	$\frac{5}{27} \cdot \frac{6}{10}$	(2回)	50
・札幌市天文指導員研修	$\frac{6}{26} \sim 27$		18
・中央区仲よし子ども館指導員研修(天文指導)	$\frac{1}{26}$		17
・札幌市職員研修	$\frac{7}{29} \cdot \frac{2}{17} \cdot \frac{3}{23}$	(3回)	95
・札幌市観光バスガイド研修	$\frac{4}{19}$		36
・東区民生児童委員研修	$\frac{5}{17}$		200
・札幌市苫小牧市交歓会(子ども会)	$\frac{3}{21}$		110
(2) 札幌市以外の市・町・村		6回	394
・江別市子どもの日行事企画講習	$\frac{4}{17}$		65
・石狩町ジュニア・リーダー研修	$\frac{5}{23} \cdot \frac{7}{3}$	(2回)	100
・厚真町札幌市交歓キャンプ	$\frac{8}{11} \sim 13$		44
・道東地区児童館厚生員研修	$\frac{3}{15}$		35
・苫前町高齢者教室	$\frac{3}{11}$		150
(3) その他		40回	7,055
・海洋少年団全国大会	$\frac{8}{9}$		5,000
・地域(町内会)キャンプファイヤー指導	$\frac{7}{31} \cdot \frac{8}{12}$	(2回)	116
・地域・学校レクリエーション指導	$\frac{6}{20} \cdot \frac{3}{22} \cdot 26$	(3回)	334
・よい子の広場	$\frac{5}{26} \cdot \frac{9}{2} \cdot 9 \cdot 16 \cdot 23 \cdot 30 \cdot \frac{7}{7} \cdot 14 \cdot 21 \cdot \frac{8}{25} \cdot \frac{9}{3} \cdot 8 \cdot 22 \cdot 29 \cdot \frac{10}{6}$	(15回)	574
・発寒勤労青少年ホーム開館祭	$\frac{1}{23}$		40
・札幌青年会議所地域対策特別委員会	$\frac{4}{26}$		20
・大和山青年会研修会	$\frac{11}{6}$		45
・日帰りじゃがいもキャンプ	$\frac{5}{23} \cdot \frac{7}{11} \cdot \frac{9}{12}$	(3回)	(29家族)280
・東区本町連合町内会婦人部講演会	$\frac{5}{20}$		40
・白石幼稚園母の会研修会講演会	$\frac{2}{28}$		28
・家庭教育学級講演会	$\frac{6}{25}$		60
・児童養護施設職員研修セミナー	$\frac{10}{15}$		40
・全市民生委員協議会総務研修	$\frac{3}{11}$		70
・北海道手稲向静学園フォークダンス講習会	$\frac{12}{15}$		11
・東本願寺青少年教化要員研修	$\frac{9}{16} \sim 17$		12
・北海道老人大学	$\frac{6}{14}$		45
・北大法学祭シンポジウム	$\frac{6}{6}$		40
・日赤奉仕団研修	$\frac{4}{21} \cdot \frac{9}{30} \cdot \frac{10}{21}$	(3回)	265
・東京海上火災札幌支店職員研修	$\frac{5}{13}$		35
合 計		141回	27,089

◀昭和58年度▶

事業名	期 日	参加数(人)
(1) 札幌市関係	126回	16,384
ア. 年間契約分	44回	7,560
・シニア・リーダー研修	$\frac{5}{8} \cdot \frac{6}{18} \sim 19 \cdot \frac{9}{17} \sim 18 \cdot \frac{3}{11}$ (4回)	917
・シニア・ジュニア国内研修	(シニア) $\frac{3}{26} \sim 31$ ・ (ジュニア) $\frac{3}{27} \sim 30$ (2回)	140
・シニア・リーダー修了者研修	$\frac{5}{8} \cdot \frac{7}{23} \cdot \frac{11}{25} \cdot 26 \sim 27$ (3回)	87
・夏季キャンプ	$\frac{7}{27} \sim 31$ (シニア) ・ $\frac{8}{1} \sim 6 \cdot 8 \sim 11$ (ジュニア) (2回)	668
・クリスマスキャラバン事前研修	$\frac{11}{16}$	18
・冬季キャンプ	$\frac{1}{9} \sim 12$	120
・青年リーダー研修	$\frac{6}{3} \sim 6 \cdot \frac{9}{3} \sim 5 \cdot \frac{2}{19}$ (3回)	68
・青年リーダー国内研修	$\frac{10}{30} \sim \frac{11}{3}$	17
・仲よし子ども館母親学習会	$\frac{6}{13} \cdot 18 \cdot 25 \cdot \frac{8}{27} \cdot 30 \cdot \frac{9}{3} \cdot 6 \cdot \frac{10}{3} \cdot 4 \cdot 6 \cdot \frac{2}{21}$ (11ヵ所)	5,016
・新一年生お母さんのつどい一泊レク研修	$\frac{10}{1} \sim 2$	41
・よい子の広場	$\frac{5}{25} \cdot \frac{6}{1} \cdot 8 \cdot 15 \cdot 22 \cdot 29 \cdot \frac{7}{6} \cdot 13 \cdot 20 \cdot \frac{8}{31} \cdot \frac{9}{7} \cdot 14 \cdot 21 \cdot 28 \cdot \frac{10}{5}$ (15回)	468
イ. 随時契約分	82回	8,824
・札幌・厚真交歓キャンプ	$\frac{8}{9} \sim 11$	69
・石川県少年交歓会	$\frac{8}{12}$	42
・ポートランドお別れ会	$\frac{8}{13}$	200
・子ども会育成指導者研修	$\frac{9}{25} \cdot \frac{10}{15} \sim 16$ (2回)	114
・青少年育成委員一泊研修	$\frac{2}{16}$	80
・父と子のキャンプ	$\frac{9}{17} \sim 18$	82
・野外活動指導員研修	$\frac{5}{16} \cdot \frac{6}{15} \cdot 18 \sim 19 \cdot \frac{9}{21} \cdot 28 \cdot \frac{10}{12} \cdot 26$ (7回)	255
・天文指導員研修	$\frac{7}{2} \sim 3$	17
・母親学園	$\frac{6}{29} \cdot 30 \cdot \frac{7}{5} \cdot 7 \cdot 11 \cdot 21 \cdot \frac{2}{2} \cdot 6 \cdot 9 \cdot 13 \cdot 14 \cdot 16$ (12回)	307
・地域ぐるみプレイセンター研修	$\frac{7}{16} \sim 17$	49
・移動天文台	$\frac{9}{9} \cdot 11 \cdot \frac{9}{1} \cdot 2 \cdot 14$ (5回)	1,306
・札幌市教育研究協議会ゼミナール	$\frac{10}{21} \sim 22$	36
・児童会館職員・指導員研修	$\frac{11}{24} \cdot \frac{12}{6} \cdot 8$ (3回)	96
・札幌市生活大学	$\frac{5}{9}$	150
・第二かしわ学園フォークダンス研修	$\frac{5}{12}$	20
・長生園職員研修	$\frac{3}{15}$	15
・ジュニア・リーダー研修	(北 区) $\frac{9}{5} \cdot \frac{10}{8} \sim 9 \cdot \frac{3}{18}$ (白石区) $\frac{5}{21} \sim 22 \cdot \frac{7}{9} \sim 10 \cdot \frac{9}{10} \sim 11 \cdot \frac{12}{3} \cdot \frac{2}{4} \sim 5$ (豊平区) $\frac{5}{22} \cdot \frac{7}{2} \sim 3 \cdot \frac{11}{26} \sim 27 \cdot \frac{1}{28} \sim 29 \cdot \frac{3}{18}$ (南 区) $\frac{5}{15} \cdot \frac{10}{8} \sim 10 \cdot \frac{12}{25} \sim 27 \cdot \frac{3}{10} \sim 11$ (西 区) $\frac{5}{2} \cdot \frac{7}{9} \sim 10 \cdot \frac{9}{3} \sim 4 \cdot \frac{11}{13} \cdot \frac{2}{4} \sim 5 \cdot \frac{3}{17} \sim 18$ (23回)	4,390
・シニア・リーダー研修	(白石区) $\frac{11}{22} \sim 23$	39
・子ども会育成者研修	(中央区) $\frac{7}{15}$ (白石区) $\frac{5}{24} \cdot \frac{8}{20} \sim 21$ (北 区) $\frac{2}{26}$ (豊平区) $\frac{5}{21} \cdot \frac{7}{10} \cdot \frac{9}{10}$ (東 区) $\frac{11}{15}$ (西 区) $\frac{5}{31} \cdot \frac{11}{8}$ (10回)	906

・中央区親子座談会	$\frac{2}{17} \cdot 22$		24
・北区星を見るつどい	$\frac{9}{3}$		12
・北区レクバス	$\frac{9}{25}$		70
・北区女性サロン	$\frac{12}{21}$		10
・東区年輪大学	$\frac{11}{10}$		60
・東区交通安全教室クリスマス会	$\frac{12}{10}$		165
・南区新一年生親子いも掘りハイキング	$\frac{9}{11}$		250
・南区新一年生お母さんのつどい研修	$\frac{2}{10}$		60
(2) 札幌市以外の市・町・村		6回	887
・石狩町ジュニア・リーダー研修	$\frac{5}{29}$		102
・苫前町婦人大会	$\frac{9}{19}$		90
・苫前町子ども会20周年記念フェスティバル	$\frac{10}{23}$		520
・北海道老人大学	$\frac{7}{8} \cdot 22 \cdot \frac{3}{23}$	(3回)	175
(3) その他		25回	5,765
・北海道工業大学サークルリーダー研修	$\frac{4}{16}$		100
・明照幼稚園PTA総会	$\frac{4}{25}$		40
・地域ぐるみ子ども会研修	$\frac{7}{20} \cdot \frac{11}{24} \cdot 28$	(3回)	280
・北光地区青少年育成委員研修	$\frac{3}{14}$		20
・小学校・町内会キャンプファイヤー	$\frac{7}{9} \cdot 26$	(2回)	377
・北郷子どもフェスティバル	$\frac{9}{25}$		186
・清掃部互助会運動会	$\frac{8}{28}$		1,750
・厚生年金ふれあい大学	$\frac{8}{30}$		100
・北海道児童収容施設職員研修セミナー	$\frac{10}{26}$		37
・札幌市子ども文化祭	$\frac{11}{3}$		1,800
・老人クラブ婦人幹部研修会	$\frac{12}{15}$		50
・赤十字奉仕団研修	$\frac{10}{6} \cdot \frac{11}{21}$	(2回)	96
・土星の輪を見る会	$\frac{7}{22}$		40
・ライオンズクラブ暑中家族会	$\frac{7}{23}$		90
・uhb チャリティクリスマス子供劇場	$\frac{12}{24}$		700
・全郵政北海道レクリーダー養成講座	$\frac{2}{10} \sim 12$		25
・東本願寺教化研修	$\frac{5}{23} \cdot 25 \cdot \frac{7}{11} \cdot \frac{9}{18} \sim 19$	(4回)	54
・札幌YMCA キャンプリーダー講習会	$\frac{6}{6}$		20
合 計		157回	23,036

◀昭和59年度▶

事業名	期日	参加数(人)
(1) 札幌市関係	136回	15,954
ア. 年間契約分	45回	6,999
・シニア・リーダー一般研修	5/13・6/16・17・9/29・30・3/10 (4回)	917
・開拓キャンプ	7/26～30 (シニア) 7/31～8/3・6・9・9～12 (ジュニア) (2回)	706
・雪中キャンプ	1/9～12	120
・シニア・リーダークリスマスキャラバン	12/7	9
・道内及び道外研修	3/26～29 (道内)・3/26～31 (道外) (2回)	178
・修了者研修	6/17・7/23・1/9～12 (3回)	44
・青年リーダー研修会	6/8～11・9/8～10・2/24 (3回)	35
・青年国内研修	11/22～26	10
・父と子のふれあいキャンプ	6/30～7/1	60
・仲よし子ども館母親学習会	6/9・23・30・7/7・10・14・10/4・5・6・2/19 (11カ所)	4,455
・よい子の広場	5/23・30・6/6・13・20・27・7/4・11・18・8/22・29・9/5・12・19・26 (15回)	432
・新一年生お母さんのつどい一泊レク研修	10/13～14	33
イ. 随時契約分	91回	8,955
・札幌・厚真交歓キャンプ	8/4～6	48
・札幌市職員研修	4/6・7/24・2/14 (3回)	139
・札幌市交通局職員研修	5/8・6/18・7/2・8/29・10/18・11/9・1/9・2/27 (8回)	252
・札幌市野外活動指導員研修	5/30・6/13・12/22～23 (3回)	71
・母親学園	10/9・11・15・18・29・30 (6回)	163
・地域ぐるみレク研修	6/13・19・26・9/3・7・11 (2コース6回)	178
・児童会館指導員研修	6/1・7 (2回)	69
・札幌市青年グループ・リーダーセミナー	2/16～17・19・22・3/1・8 (5回)	170
・札幌市生活大学	5/8	150
・札幌市健康を守る婦人のつどい	4/17	100
・札幌市教育研究協議会	5/8	200
・楽しい天文の夕べ	(Aコース) 6/22・7/6・20 } 8/17 (2コース7回) (Bコース) 6/29・7/13・8/10 } (合同日)	101
・移動天文台	8/9・9/5・12・20・21 (5回)	640
・札幌市子ども文化祭	7/3	1,570
・ジュニア・リーダー研修	(北 区) 6/24・10/13～14・3/17 (白石区) 5/19・12/8～9 (豊平区) 5/20・6/30～7/1・11/10～11・1/26～27・3/24 (南 区) 5/20・7/14～15・9/14～16・12/26～28・3/2～3 (西 区) 5/27・7/7～8・9/1～2・11/11・2/9～10・3/16～17 (21回)	3,614
・シニア・リーダー研修	(中央区) 1/25 (白石区) 1/22～23 (2回)	26

・子ども会育成者研修	(白石区) $\frac{1}{5}$ (豊平区) $\frac{5}{20} \cdot \frac{7}{22}$ (西 区) $\frac{5}{18} \cdot \frac{1}{3}$	(5回)	}	567
・青少年育成委員研修	(白石区) $\frac{1}{7}$ (西 区) $\frac{1}{2}$	(2回)		
・北区接遇研修	$\frac{7}{26}$			20
・北区星を見る会	$\frac{7}{7}$			22
・東区子ぐまクラブクリスマス会	$\frac{1}{1}$			110
・白石区児童会館指導員研修	$\frac{6}{27} \cdot \frac{7}{3}$	(2回)		22
・白石区仲よし子ども館指導員研修	$\frac{1}{2}$			24
・豊平区りんご祭	$\frac{1}{7}$			154
・新一年生お母さんの集い	(豊平区) $\frac{1}{9}$ (南区) $\frac{2}{8}$	(2回)		190
・西区青年ボランティアサークル研修	$\frac{7}{3}$			7
・海外における青少年グループ活動調査研究	$\frac{3}{11} \sim 23$			—
(2) 札幌市以外の市・町・村		7回		1,163
・児童福祉週間記念行事	$\frac{1}{29}$			890
・北海道老人大学	$\frac{5}{11} \cdot 18 \cdot \frac{6}{4} \cdot \frac{1}{10}$	(4回)		240
・小樽市レク・リーダー研修	$\frac{1}{9}$			11
・石狩町青年リーダー研修	$\frac{2}{26}$			22
(3) その他		27回		1,469
・北海道工業大学クラブ・リーダー研修会	$\frac{5}{12}$			60
・道立保育専門学校レク研修	$\frac{5}{19} \cdot \frac{1}{13}$	(2回)		160
・藤女子大学保育科研修	$\frac{7}{15}$			70
・みどり小学校P T A レク研修	$\frac{7}{3}$			32
・栄緑小学校P T A レク研修	$\frac{7}{17}$			50
・藻岩小学校P T A 研修	$\frac{1}{16}$			80
・青葉小学校読みきかせ会レクリエーション	$\frac{1}{29}$			150
・藻岩南小学校家庭教育学級	$\frac{1}{14}$			17
・拓北小学校P T A 研修	$\frac{5}{28}$			90
・新琴似西育成者研修	$\frac{6}{27}$			35
・新川地区子供会育成者研修	$\frac{5}{18}$			70
・里塚青空子供会育成会	$\frac{7}{9}$			30
・本郷町内会キャンプファイヤー	$\frac{8}{1}$			30
・西野足並子供会厚真キャンプ	$\frac{8}{12} \sim 14$			61
・北栄連合町内会研修	$\frac{9}{12}$			60
・白石幼稚園家庭教育講演会	$\frac{2}{25}$			30
・東本願寺教化研修	$\frac{5}{31} \cdot \frac{9}{19} \sim 20$	(2回)		21
・札幌Y M C A 野外活動指導者養成講座	$\frac{6}{19}$			20

・「青少年の非行」対策を考えるシンポジウム	7/17	60
・赤十字奉仕団レク研修	8/5	15
・東札幌児童会館七夕の星を見る会	8/6	50
・養護施設職員現任訓練	10/5	41
・子どもサミットインほっかいどう	11/3～4	122
・中小企業経営管理者研修	11/4	45
・積水ハイム子どもレクゲーム	2/17	70
合 計		170回
		18,586

2. 勤労青少年ホーム等への指導員派遣

〈派遣課所〉

ホーム及び会館名	人数
札幌市中央勤労青少年ホーム	3名
〃 円山 〃	2名
〃 アカシア 〃	3名
〃 ポプラ 〃	3名
〃 豊平 〃	3名
〃 発寒 〃	3名
札幌市石山青少年会館	2名
合 計	19名

ただし、昭和55年度は、中央(1名)、ポプラ(1名)、豊平(2名)、石山(1名)のみ。

昭和56年度は、中央(3名)、円山(2名)、アカシア(3名)、ポプラ(3名)、豊平(3名)、石山(2名)

昭和57年度より全館(19名)派遣。

〈業務内容〉

- (1) 利用者の指導及び相談に関すること。
- (2) 事業計画のプログラムに関すること。
- (3) クラブ・サークルの育成指導に関すること。
- (4) 教養講座等事業の進行に関すること。
- (5) 新規利用者の育成に関すること。
- (6) 利用者連絡会の指導、助言に関すること。
- (7) 利用者に関する資料及び研修の資料作成。
- (8) ホームだより及び利用者行事に関すること。
- (9) ホーム・会館の利用者の指導、育成に必要と思われること。



(円山・発寒ホーム合同
「ロングランソフトボール大会」)



(石山青少年会館「バドミントン大会」)



(円山ホーム「クリスマスパーティー」)

〈勤労青少年ホームとは・・・〉

市内に在勤する満15歳から満29歳までの働く勤労青少年の憩いの場です。市内に6つのホームと1つの会館があり、スポーツ、講座やそれぞれの館の特徴を生かした行事などを青少年の手によって作り…、また参加し、仲間の輪を広げるとともに、健全育成を目指す場でもあります。



(豊平ホーム 自然探勝とホーム見学の旅、)



(中央ホーム クリスマスパーティー、)



(ポプラホーム:納涼祭
利用者为一体となつての
ホーム最大の行事、)



(アカシアホーム:クリスマスパーティー
マジック講座受講生による
マジックショー、)



(発寒ホーム トークイン札幌、)

施 設 管 理 事 業

1. 札幌市青少年センター
2. 札幌市婦人文化センター
3. 札幌市青少年レクリエーションセンター
4. 札幌市天文台
5. 札幌市滝野自然学園

青年・婦人の社会参加を推進するとともに、少年のグループ活動を促進することは、現代の社会的状況のもとにおいて重要な課題とされています。

札幌市は、この課題に対して各種の事業を展開していますが、特に社会教育の分野においては多様な施設を整備して文化の向上に努めるとともに、青少年婦人の自主的な活動の拠点を確立してこれらの活動を支援しています。

協会は、自らの保有しているリーダーシップを提供することによって地域社会に対する使命を果たすため、協会の目的に合致する施設の管理を受託し、青少年婦人による諸活動推進に寄与するよう努力をいたしております。



小さくて、巨大な若者の城——という表現が、ピッタリ来るほどパワーにあふれているセンターです。このセンターは、明るい自由なスペースを持ち、札幌市の中心部に位置する若い人たちの新しい活動拠点です。

また、若い人たちだけに限らず、一般の方々も使える開かれた施設です。

〈施設の概要〉

- ・場 所 札幌市中央区北2条西7丁目
(TEL 261-0118)
- ・敷地面積 489.25㎡
- ・建物面積 921.78㎡
- ・構 造 鉄筋コンクリート造地上3階建一部地下1階
- ・オープン 昭和57年2月21日

〈1階〉

・事務室・喫茶・オアシス（ロビー）

各室の利用申し込みの受け付けをはじめ、だれでも気軽に入れて開放的なオアシス（ロビー）や喫茶があり、音楽に耳を傾けたり、読書もできます。

青少年団体の事務室や印刷コーナーもあります。

〈2階〉

・会議室・音楽練習室・和室

会議室は通して使うと40～50名収容、4つに区切っても使えます。音楽練習室は8名収容で、ドラムセット、キーボード、各種アンプ、エコーチェンバー、マイクを備えてあります。和室は10名と20名収容の2室、ゆったりとして会議や打ち合わせにも使えます。

〈3階〉

・ホール

150名収容、照明、音響設備は大ホールなみ。コンサートから演劇、そしてダンスまで幅広く使える多目的ホールです。

〈利用方法〉

- ・開館時間 平日……午前9時～午後10時
日、祝日…午前9時～午後5時
- ・休館日 年末年始（12月29日～1月3日）
- ・申込方法 ホール…青少年は使用日の属する月の3ヵ月前の初日から、一般の人は2ヵ月前の初日から
その他…青少年は使用日の属する月の2ヵ月前の初日から、一般の人は1ヵ月前の初日から
- ・受付時間 平日・土曜日の午前9時～午後7時



（会議室に国際交流風景。）



（3階ホールにセンター祭・マラソンコンサート風景。）

〈利用状況〉

(人)

室名 \ 年度	56年度	57年度	58年度	59年度	計
ホー ル	3,366	27,622	33,723	42,625	107,336
和 室 A	415	6,004	7,173	6,507	20,099
和 室 B	492	3,453	4,287	4,728	12,960
会 議 室	1,146	12,489	12,447	13,406	39,488
音楽練習室	383	3,833	3,799	3,607	11,622
合 計	5,802	53,401	61,429	70,873	191,505
オアシス	1,471	15,329	16,773	17,354	50,927

※ 56年度は2月・3月の2ヵ月分

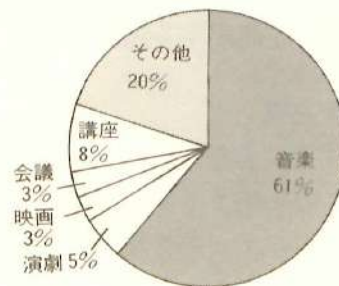


(利用者交流会)

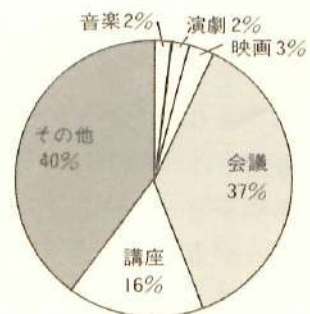
〈こんな人たちが、こんなふうに・・・〉

昭和59年度使用内訳

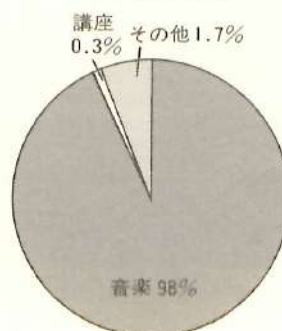
〈3階ホール〉



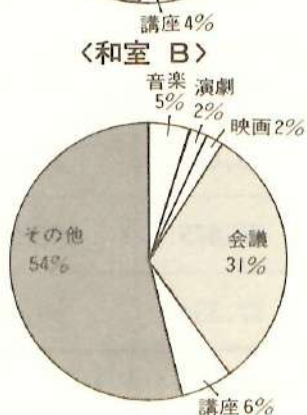
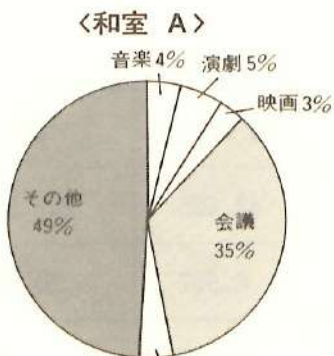
〈会議室〉



〈音楽練習室〉



(国際交流コーナー)



〈センター主催事業〉

・札幌市青少年指導者養成講座（グループ・ワーカー養成講座）

人と人とのふれあいを大切にし、またグループ活動においてグループに働きかけができるワーカーを養成する講座です。

・青少年センター祭

第1回「今、青春ふるこーす」、第2回「秋だというのに腕まくり」、第3回「青年万作秋日和」…とユニークなタイトルで、青年たちが集まり騒ぐセンターの祭りです。

1階オアシスや、センター前には、とこせましと出店が立ち並び、それぞれのサークルが特徴を生かし、食べ物あり、占いあり、展示即売ありの大にぎわいです。

2階の会議室は「喫茶青年万作(59年度)」という名の喫茶コーナーとなり、3階ホールは、朝から夕方まで、ライブを続けるマラソンコンサートや映面上映会があったり、とにかく楽しいお祭りです。



(第1回センター祭 受付風景、)



(第2回センター祭 入口看板、)



(第3回センター祭 出店風景、)

・ステージング・クリニック（コンサート入門）

3階ホールの機材の使い方やコンサートのノウハウを実際に自分たちも参加して学ぼうというものです。

機材には、ミキサーと調光卓がありますが、どちらも実際に自分たちで使ったことが少ないことや、より効果的に使ってもらうために開かれました。音作りの楽しさや色の使い分けなど、コンサートをする人にはとても勉強になります。また、コンサートの準備から終わりまでの説明会や、自分たちのコンサートのPRも行ったり、これからコンサートを計画する人にはよい機会です。



(ステージング・クリニック)

・利用者懇談会

センターの利用者とセンターの職員による懇談会。年1回開かれ、利用者からのセンターへの要望や、使用しての感想を利用者同士話し合い、センターをよりよく使っていただくというものです。

要望を取り入れて実現したものには、音楽練習室のクーラーやオアシスの伝言板など、まだ外にもありますが、要望だけではなくセンターからも、センターの使い方についてアドバイスや注意をする場にもしています。

・利用者交流会

日ごろセンターを利用しているサークルの人たちは、自分たちのサークルしか知りません。そこで、他のサークルとの交流を目的としているのが、この交流会です。遊びやゲームなどをとおして交流を深めようというものです。

・国際交流

札幌市内在住の青少年と在札の外国から来ている青少年との交流会。

ふだん、あまり接することのない諸外国の方々やゲームや、フォークダンスなどとおし交流を深め、フリートーキングの時などは、情報の交換をしあったり、楽しい時を過しながら、知識をも深めあおうというものです。また、センター1階のオアシスには、青少年国際交流コーナーがあり、諸外国の方々が札幌を訪れた時の贈り物が展示してあります。



(国際交流「デコレーション・コンテスト」)

・情報コーナー

札幌市内はもとより、全国の青少年施設を紹介しています。また、キャンプ場情報や、冬のスポーツ情報を年1回それぞれ発行しており、一般の方々にも広く利用されています。

・「若い芽」

年4回発行し、3階ホールスケジュールや、サークル紹介など、盛りだくさんのセンター情報紙です。



(利用者懇談会)



(情報コーナー)

〈頑張ってます!!協会職員〉

青少年センターは青少年に開かれた施設。

ここでの協会職員の仕事は、部屋の貸付業務や管理業務はもちろん、青少年指導者養成講座、ステージング・クリニックなど、ユニークな主催事業を実施すること——

青少年のみならず、ご婦人や、高齢の方々の利用もありその対応の幅はととも広いのです。



2. 札幌市 婦人文化センター

「エプロン掛けでどうぞ」を合言葉に——
 札幌市の婦人活動の拠点として親しまれ早3年。
 センター内は、いつも明るく快活に学習、趣味
 スポーツなどに打ち込むご婦人たちの姿にあふれ
 ています。

なお一層の生活文化の向上をめざして、幅広い
 女性の利用ばかりでなく、男女の共同参加を目標
 に、より多くの男性の参加も呼びかける、新たな
 “コミュニケーション空間”です。

〈施設の概要〉

- ・場 所 札幌市中央区大通西19丁目
(TEL 621-5177)
- ・敷地面積 2,326.2㎡
- ・建築面積 1,645.9㎡
- ・建物延面積 3,047.6㎡
- ・構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造
(一部鉄筋コンクリート造)
地下一部1階・地上2階建
- ・オープン 昭和56年12月1日

〈1階〉

- ・広くゆったりとしたエントランスホール
- ・気楽な語らいの場として利用できる小集会
コーナー。
- ・枯山水の庭を眺めながら使える和室は、茶
道、会合などに最適です。
- ・「家庭の台所」の雰囲気を利用できる料理
実習室。
- ・ボランティアサークルの自主的活動の場と
してのボランティア・ビューロー。
- ・婦人のための図書、資料を12,000冊備えた
情報資料室は、貸し出しを行っています。

この外に、幼児室、印刷コーナー、相談室
などがあります。

〈2階〉

- ・500名収容のホールは、講習会からジャズ
ダンス、バドミントンなど多目的に利用でき
ます。また、ホール利用者のためにシャワ
ー室も完備されています。
- ・研修室は第1が100名、第2が60名、第3
が30名ですが、それぞれの目的に合わせた広
さで使うことができます。



(ティータイムサロン)



(情報資料室)

- ・音楽室兼視聴覚室は、ビデオ、カセット、16
mm映写機、OHP、ステレオなど、時代の要求
に応えた視聴覚器材を備えています。また、
合唱、ピアノなどの音楽練習にも利用されてい
ます。
- ・洋和裁室と実技研修室は、専門的な機能性を
もち、趣味的サークルの利用に十分満足してい
ただけると共に、ホール利用の際の楽屋として
も使えます。

〈利用方法〉

- ・開館時間 午前9時～午後9時
(日・祝日も利用できます)
- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
- ・申込方法 ①使用日の属する月の2ヵ月前の初日から申し込みできるもの。
下記②以外で、ホール及び研修室等を使用するもの。
②使用日の属する月の3ヵ月前の初日から申し込みできるもの。
婦人のために行う催物で、次に掲げるものを原則とし、かつ、ホール及びこれに付随して必要な研修室等を使用する場合。
- ・公共団体及び公共団体的団体が主催するもの。
- ・市が共催又は後援するもの。



(音楽室兼視聴覚室)

- ・受付時間 平日は午前9時から午後5時まで、土曜日は午前9時から午後1時まで窓口で直接お申し込みください。
 - ・電話予約 初日は午後1時から、予約日を含めて3日以内に、申込書に使用料を添えて手続きしてください。(印鑑持参)
- 申し込みの受付の初日が、日曜日、祝日及び休館日の場合は翌日。

〈利用状況〉

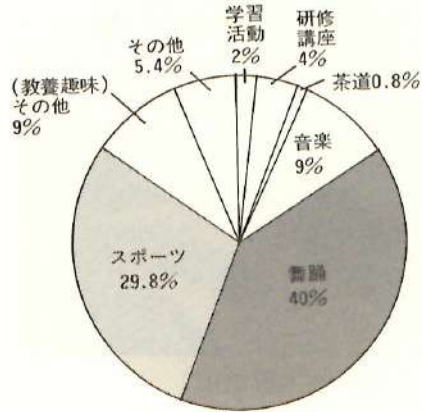
室名	年度	56年度	57年度	58年度	59年度	合計
ホー ル		16,297	68,613	60,799	64,257	209,966
第1研修室		7,769	34,255	36,030	33,284	111,338
第2研修室		6,157	22,469	20,327	22,366	71,319
第3研修室		3,067	11,824	11,113	13,576	39,580
第1和室		3,171	11,858	11,301	10,667	36,997
第2和室		3,253	12,253	11,794	12,071	39,371
洋和裁室		1,402	6,813	6,058	5,729	20,002
実技研修室		2,435	9,845	9,474	9,525	31,279
視聴覚室		3,430	18,134	19,961	17,352	58,877
料理実習室		1,848	9,368	10,277	14,439	35,932
合計		48,829	205,432	197,134	203,266	654,661
幼児室		820	3,428	2,628	2,786	9,662
情報資料室		2,530	11,671	14,484	14,668	43,353
相談室等		1,640	3,814	2,677	2,155	10,286
総計		53,819	224,345	216,923	222,875	717,962

※ 56年度は、12月～3月の4ヵ月分

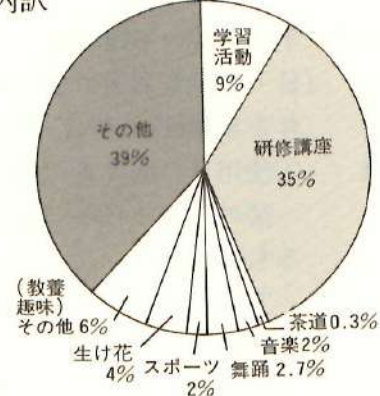
〈こんな人たちが、こんなふうに……〉

昭和59年度使用内訳

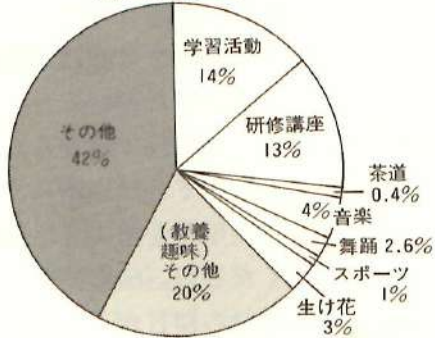
〈ホール〉



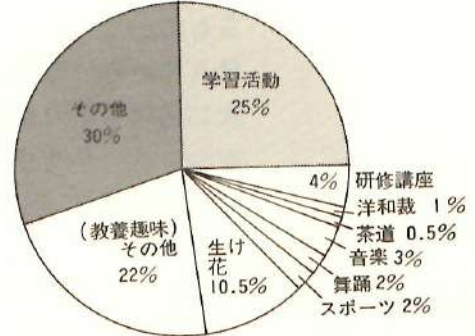
〈第1研修室〉



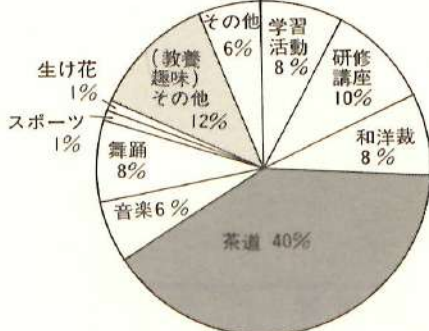
〈第2研修室〉



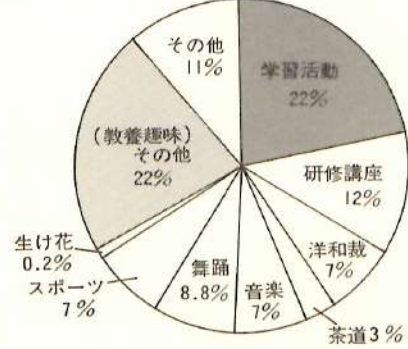
〈第3研修室〉



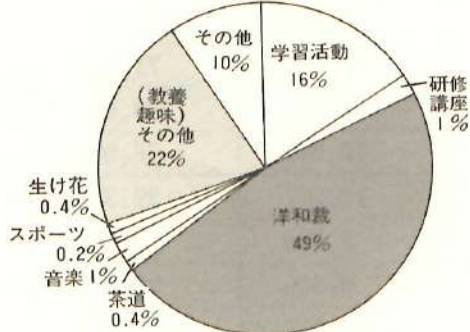
〈第1和室〉



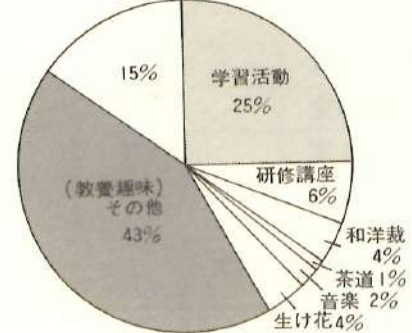
〈第2和室〉



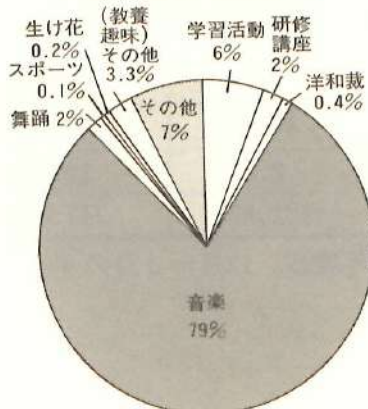
〈洋和裁室〉



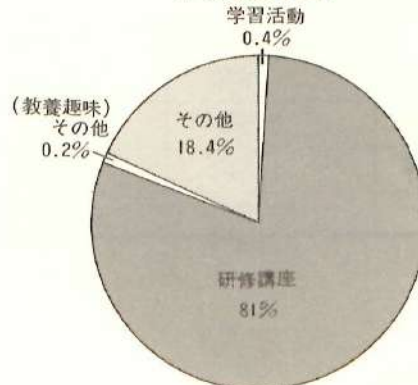
〈実技研修室〉



〈音楽室兼視聴覚室〉



〈料理実習室〉



センター主催事業

オープン以来、センターのPRに主眼を置き、より多くの婦人に参加していただけるように、常に婦人の要求に応えた内容を取り入れると共に、働く婦人も参加できるような時間帯での講座の開催、また今までは育児のために参加できなかった婦人層に対して託児施設を用意するなど、婦人の生活文化、教養の向上の一助となるような事業を提供しています。

〈婦人通信講座〉

何らかの事情であり外へは出かけられない方々、また昼は勤めていて受講は無理だという方々にも、家庭にいながらにして、気軽に参加できるという利点を生かした通信講座がスタート。

毎回テーマに対して各分野の専門家による通信文の郵送及び受講者の生の声を聞くためのアンケート、そして何よりも、この講座が一方的なものにならないためのスクーリングの実施といった形式で進められています。



(婦人通信講座受講風景)

・「健康で楽しい小学校生活を送るために親が知っておきたい心構え」 (57年度)

入学時期は子供にとっても、母親にとっても学校生活を迎える第一歩ですから、不安と期待が入り混じった不安定な時期だともいえるでしょう。

そのため、入学後に子供に心身両面でいろいろな問題が生じてくることも考えられます。子供が持つ不安や悩みを、母親に各分野から把握してもらうと共に、より望ましい小学校生活とは何かを知ってもらうために実施いたしました。

(対象)

5, 6歳児を持つ母親 60名

(プログラム)

8月第3週目～10月16日 (全9回)

5回の通信文郵送と4回のスクーリング開講。

教育、保健、医学、心理の4分野に分けて実施。

・「健康で楽しい中学校生活を送るために親が知っておきたい心構え」 (58年度)

中学生といえば、心も体も人生において最も成長する時である反面、最も不安定な時期だともいえるでしょう。

そのことは、近年とくに問題となっている中学生の家庭内、校内暴力や自殺などにも見られるようです。このことを我々は単なる非行の増加低年齢化などと他人ごとのようにとらえて良いものでしょうか。

この講座は、非行そのものに目を向けるのではなく、この時期の子供が持つ悩みや不安を母親が各分野よりとらえると共に、中学校生活を知ってもらうために行いました。

(対象)

小学校5, 6年生を持つ母親 60名

(プログラム)

9月第1週目～11月5日 (全9回)

5回の通信文郵送と4回のスクーリング開講。

医学、心理、精神医学、教育の4分野に分けて実施。

・「健康で楽しい小学校生活を送るために親が知っておきたい心構え」 (59年度)

昭和57年度の好評に応じて、講師には現場で子供たちとかかわりを持つ方々に参加してもらい、内容の充実をはかり行いました。

(対象)、(プログラム)とも57年度と同じ。

婦人通信講座

第4回 スクーリング〈心理〉 北海道大学教員 三七名



(婦人通信講座・スクーリング)

〈婦人小講演会〉

・婦人にかかわる幅広い情報及び問題をテーマに、道内外から第一線で活躍中の講師を招き、常に新鮮な話題を提供しています。

—昭和56年度—

「童話とわたくしたち」

童話作家 長野 京子氏

—昭和57年度—

「婦人が見た、カナダ、アメリカ滞在記」part 1.2

札幌市青少年婦人活動協会

専門員 川島 利子

「生きがいについて」

脚本家 倉本 聰氏

「主婦の持つそろばん」

生活評論家 青木 淑子氏

—昭和58年度—

「私の職業」—テレビ・人・ふれあい—

アナウンサー 小川 宏氏

「これからの女性の生き方」

アナウンサー・評論家 木元 教子氏

—昭和59年度—

「素敵な暮らしをあなたに」—新鮮な365日の生き方—

家事評論家 吉沢 久子氏

「現代への挑戦」—あなたは今をどう生き抜くか—

経済評論家 邱 永漢氏



(婦人小講演会
木元 教子氏)

〈婦人リーダー研修会〉

婦人団体、サークル、町内会婦人部の活動が、盛んに行われている昨今ですが、その中で多くのリーダーが、毎日一喜一憂しながら積極的な運営を続けていられることと思います。

この研修会は婦人団体、サークル等のリーダーの方々及びグループ活動を望む人に視野を広くもっていただけるように、国内外の動きをいち早く生きた情報として提供することを心がけると共に、お互いの情報交換の場としても活用していただけるような内容で行っています。

〈レクリエーション研修会〉

今日「レクリエーション」は地域社会、職場、学校などにおいて、欠かすことのできない存在になりつつあります。その存在は婦人団体・サークル活動においても例外ではありません。

しかし、わが国において「レクリエーション」とは単なる「気晴らし」、「暇つぶし」的なとらえ方が多く、本来の意味を知る人はまだまだ少ないのではないのでしょうか。また、頭では十分理解していても、実際自分が中心となって動くことになると、つい引込みがちになってしまうことが多々あるものです。

この研修会は、こうした婦人活動へのより積極的な参加、運営を促進及び助言するために行っています。



(研修会・受講風景)

なお、この外に婦人団体、サークル活動を行う方々に対して、ポスター、チラシ、広報紙の作り方などを学ぶ広報担当者研修会も行っています。



(婦人リーダー研修会)



(母と子のあそびの学校)

〈母と子のあそびの学校〉

現代社会の中で忘れかけている「あそび」を今一度振り返ることで、母と子のふれあいを見つめ直し、それらを通して集団性、協調性を養っていく母親に対する講座です。

—母と子の野外キャンプ—

夏のひとときを自然の中で、母と子が一体となって暮らしながら、日常生活を振り返ってみてはどうでしょうか。

この学校では、母親にキャンプのプログラムについて学んでもらうと共に、母と子が野外活動の中でのあそびを通してスキンシップを深めながら、集団生活の中での協調性を養うことを目的としています。

〈対象〉

市内に居住する母と子 30組

〈プログラム〉

- 第1回 「キャンピングについてpart 1」
- 第2回 「キャンピングについてpart 2」(実技)
- 第3回 「体験研修」 1泊2日



(炊さん説明)

—母と子のクリスマス—

現在クリスマスは、本来的な意味よりもむしろ商業化しつつあります。この講座はクリスマスの持つ意味を考え、その中で母と子が共に楽しむことができるような会を行うためのプログラムの作り方、進め方を学んでもらうと共にセレモニーに必要な知識や技術を習得しながら、それらを通じて、母と子のふれあいを一層深めていくことを目的に行っています。

〈対象〉

市内に居住する母と子 25組

〈プログラム〉

- 第1回 「クリスマスパーティの進め方」
- 第2回 「パーティーでのゲームなどについて」
「クラフト」
- 第3回 「クリスマスの家庭料理」
「みんなで作る、クリスマス」



(クリスマス・テーブル飾りつけ)

—母と子の一泊雪のあそび—

室内に閉じこもりがちな冬の生活の視点を少し変えて、この時期でしか味わうことのできない冬のあそびについて考えてみたいと思います。

その中で雪を使っての外での遊びを通して、集団生活の協調性を養うとともに、親と子のふれあいを深めることをねらいとして行っています。

〈対象〉

市内に居住する母と子 30組

〈プログラム〉

- 第1回 「母と子のあそびについて」
- 第2回 「体験研修」 1泊2日



(雪中レクリエーション)

〈ボランティア・スクール〉

ボランティア・スクールは地域・施設などでボランティア活動を実践してみたいと考えている婦人のための研修の場として、昭和50年に開講いたしました。

昭和56年婦人文化センターオープンに伴って、この事業が当協会に委託され、59年度で通算20回満10周年を迎えました。

この10年間に延べ542名の方が修了されましたが、各期の修了生が自主的にサークルを結成し、それぞれが地域・施設などのさまざまな分野で活動しています。

講座方式については、受講生の主体的な参加意識を喚起するため、グループ討議、グループ研究を大きな柱としています。

内容としては、全9回行われ基礎講義のほかに、宿泊研修、フィルム・フォーラム、街頭演習（体験学習）をするなど変化をもたせて行っており、受講生の年齢層は20代から70代と幅広いのも特徴のひとつとなっています。



(ボランティア・スクール街頭演習)

〈料理講座〉

食生活は、生きていく上で最も重要な位置を占めています。そのためか、センター主催の講座の中でも、料理講座は婦人の関心の高いものの一つです。

この講座は単に作り方を学ぶだけでなく、例えば世界の家庭料理（中国、インド、ドイツ等）を紹介することで、その国の生活文化を知ってもらうように企画しています。また、市内の専門店、一流ホテルの味を舌で学ぶなど、いろいろな角度から料理を考える機会を提供しています。

—主な講座—

「本場中国のぎょうざとワインの集い」

「北海道の味覚を食卓へ」—じゃがいも料理—

「ちょっと気どったおもてなし」—フランス料理—

「ひなまつりに向けてのおもてなし」—点心料理—

この外にもいろいろな講座を行いました。

〈ボランティア・ビューロー研修会〉

この研修会は婦人ボランティア・ビューローの事業の一環として行われているものです。

ボランティア・ビューローは昭和56年、婦人文化センターのオープンに伴って、それまで札幌市青少年婦人部に設けられていた婦人ボランティア・コーナーを、婦人ボランティア・ビューローと改称し、婦人ボランティアの窓口として当センターへ移設したものです。

研修会は現在ボランティア活動をしている婦人はもちろんのこと、これから活動を始めたいと思っている婦人まで幅広く対象を広げています。

内容は、高齢化社会、地域問題、健康問題など社会的に関心の高いテーマをとりあげて研修しさらに車イスの操作方法、老人介護方法などの実技研修も行っています。

また、今後のボランティア活動の参考とするため、ボランティア活動に関する情報あるいは個人、サークルの方が活動していくうえでの問題点を出し、活動の方向性等について話し合うための意見交換会も開催しております。



(ボランティア・ビューロー研修会風景)



(料理講座実習風景)

〈婦人コンサート〉

クラシック・コンサートはちょっと苦手という方にも、気軽に楽しんでいただけるような内容で、婦人コンサートを行っています。

- 「ピアノと木管楽器の夕べ」 (56年度)
- 「マンドリンの夕べ」 (57年度)
- 「秋の夜長をクラシックと共に」 (♫)
- 「ポピュラー音楽の夕べ」 (58年度)
- ロビーコンサート「室内楽の夕べ」 (♫)
- 「親子で楽しむクラシック」 (59年度)
- ロビーコンサート「弦楽五重奏の夕べ」 (♫)



(クラシック・コンサート)

〈健康講座〉

最近の健康ブームに伴い、ますます体を動かすことが婦人にも浸透してきているようです。そこで、センターでは年齢を問わずだれもが気軽に参加できるような内容で、スポーツ、踊りなどを通してさわやかな汗を流す楽しさを味わってもらうために健康講座を行っています。また勤労婦人が参加できる時間帯にも開講しています。

- 「ジャズ・ダンスでさわやかな汗を」
- 「ヨガ講座」
- 「シェイプ・アップ・エアロビックス」
- 「バドミントンでさわやかな汗を」
- 「ヨガ・ダンスであなとも健康美に」など



(健康講座実習風景)

〈女性学講座〉

国内外の新しい情報を提供するための場を持つと共に、受講者が進んで参加できるような内容(ティータイムサロン、見学会、体力テスト等)

も取り入れて行うなど、婦人の学習、知識の向上の一助となるような講座を実施しています。

- 「七夕と科学の夕べ」—お話と科学館見学—
- 「女性の生き方を探って」—お話と映画会— (57年度)
- 「アメリカと日本の女性はどのように違うのだろうか」
- 「ふるさとを考える」—見学会—
- 「家庭における中国医学」
- 「スポーツの秋に健康チェックを」 (58年度)
- 「今、人生を振り返って」
- 「ティータイムサロン」—札幌に暮らした^{ひと}女— (3回シリーズ)
- 「さっぽろの産業を探る」
- 「すてきな夫婦のあり方」—今、アメリカでは— (59年度)

〈開館記念行事〉

- 講演会、特別相談、婦人芸能のつどい、ファッションショー、公開座談会を行いました。(オープン)
- 講演会、婦人芸能、作品展、映画会、特別法律相談を行いました。(1周年記念)
- 講演会、映画会、特別法律相談を行いました。(2周年記念)
- 講演会、芸能のつどい、映画会、ロビーコンサート、作品展、特別法律相談を行いました。(3周年記念)

〈定例婦人相談〉

毎週2回、婦人の悩みごと一般に関する相談を電話・面接にて婦人相談員が受けています。

—相談状況—

年度	電話	面接	計
昭和56	94件	6件	100件
昭和57	383件	53件	436件
昭和58	270件	32件	302件
昭和59	201件	36件	237件

この外に年2回特別婦人相談を行っています。

〈頑張ってます!!協会職員〉

ここでの職員の仕事は大別して2つ。そのひとつは貸館業務。もうひとつは主催事業。また、情報資料室も重要なウエイトを占めています。これらの業務を、館長、次長、専門員を含め10名の職員で行っています。



演劇練習，あるいは研修会等にも使えるセンターです。外見も中も山小屋風の建物ですが，その使い方は色々——アイデア次第で有効に使える施設です。

〈施設の概要〉

- ・場所 札幌市白石区平和通1南2 (TEL 864-0027)
- ・建築面積 143㎡
- ・構造 木造平家建
- ・オープン 昭和49年10月26日

〈利用方法〉

- ・開館時間 午前10時～午後10時 (日，祝日も利用できます)
- ・休館日 毎週水曜日 年末年始 (12月29日～1月3日)
- ・申込方法 札幌市市民局青少年婦人部へ (TEL 211-2942)

〈研修室兼集会室〉

・広すぎず，狭すぎず，多目的に使用できる部屋です。ちょっとした研修会や例会にも気軽に使えます。

〈利用状況〉

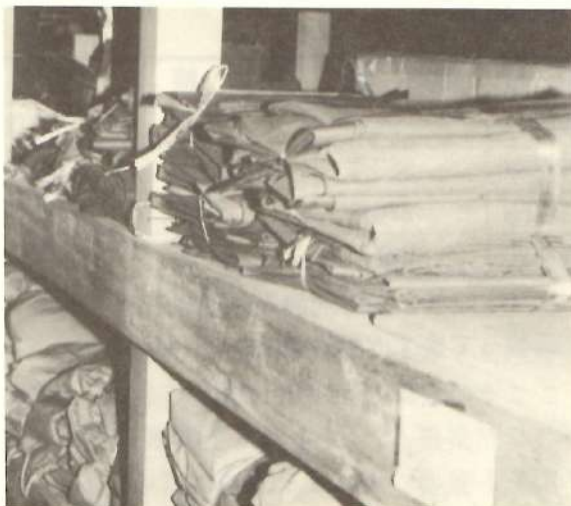
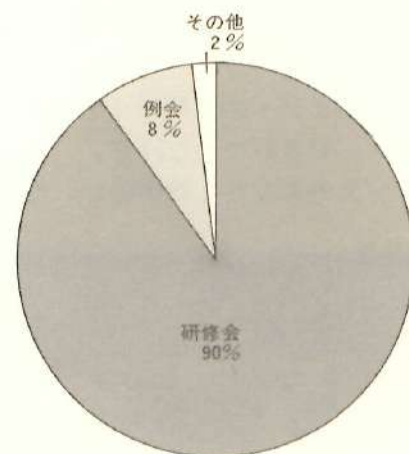
(人)

	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	計
研修室兼集会室	1,328	2,084	1,883	1,321	1,127	7,743



(フォーク・ダンス風景)

〈研修室兼集会室〉 (59年度)



(収納室テント保管)

〈頑張ってます!!協会職員〉

センターでは2人の職員が，午前10時～午後2時，午後2時～午後10時と交替で勤務しています。野外用具の貸出しと部屋の貸出しが主な業務です。



青少年をはじめ多くの市民が気軽に天体観測を楽しむ
 場を提供し、天体に関する興味と理解を抱かせ、子
 供たちに宇宙への夢を与え、豊かな創造力を育成する
 ことを目的に開設され、今日では多くの市民に親しま
 れてきています。

〈施設の概要〉

- ・場 所 中央区南11条西4丁目中島公園内 (TeL 511-9624)
- ・開設年月日 昭和33年9月1日
- ・構 造 鉄筋コンクリート造51.26㎡
- ・設 備 口径20cm屈折赤道儀式望遠鏡 (使用倍率40~400倍) を5mドーム内に設置
座標測定器
- ・開館時間 9:00~17:00
- ・休館日 毎週月曜日の午後, 毎週火曜日, 祝日
- ・利用方法
 (日 中) 晴れていれば太陽の観望可能
 (午前10時~12時, 午後2時~4時)
- (夜 間) 年間50回ほどの夜間天文台を実施
 (詳しくは直接天文台に問い合わせるか
 「広報さっぽろ」で)
- ・そ の 他 天文に関する問い合わせサービス
 (午前9時~午後5時)



(月の表面)

〈利用状況〉

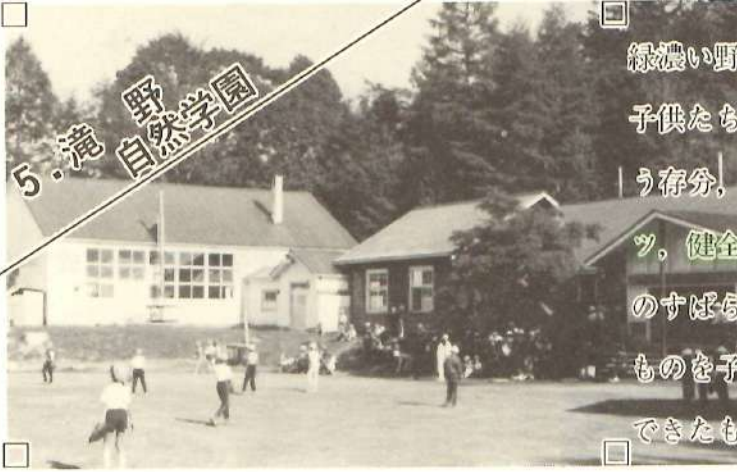
	昼間利用数 (9~17時)	夜間利用数 (夜間天文)	電話問合せ数
56	4,991 ^(人)	1,141 ^(人)	1,930 ^(件)
57	4,003	1,509	1,408
58	3,384	994	1,304
59	2,677	1,805	1,076



(夜間天文)

〈頑張ってます!! 協会職員〉

「はい、天文台です。」天文台常駐職員はただ一人です。昼間天文台を見学に来る人たちにドームを案内したり、電話での問い合わせに応じることが多く、年50回の夜間公開では星の世界へ来台者を誘う案内役も務めています。59年度、初めての事業「天文の夕べ」を開催しました。



緑濃い野山の木々、清らかな川の流れ、澄んだ空気、子供たちが美しい大自然のふところに飛び込んで、思う存分、野外活動を展開し、自然の観察や野外スポーツ、健全なレクリエーションなどを通して、共同生活のすばらしさを体験することができる施設で、そうしたものを子供たちに与えたいという人々の願いによってできたものです。

〈施設の概要〉

- ・場 所 札幌市南区滝野106番地 (TeL 591—8780)
- ・設立年月日 昭和46年 8月17日
- ・開園期間 通年
- ・収容人員 130人
- ・利用対象 学校団体、社会教育関係団体
- ・規 模
- (敷 地) 34,937㎡
- (建 物) 木造平屋建802㎡
- 宿泊室 3, 学習室, 食堂兼集会室, 乾燥室
- 指導者控室, 事務室, 調理場, 洗面所, 便所
- ・(設 備) 給水, 給食, 放送, 暖房, 消火
- ・(教 材) ピアノ, オルガン, 16ミリ映写機, 8ミリ映写機, スライド映写機, OHP, 双眼鏡, 顕微鏡, テープレコーダー, マイク, トランシーバー, ステレオ
- ・給 食 学校団体については給食可
- ・利用手続 詳しくは教育委員会社会教育課 (TeL 214—4583) へ



(風景, アシリベツの滝)

—滝野自然学園変遷史—

1902年 (明治 35年)	厚別器械場教育所設立
1917年 (大正 6年)	器械場尋常小学校と改称
1942年 (昭和 17年)	札幌郡器械場国民学校と改称
1948年 (昭和 23年)	札幌郡豊平町滝野小学校と改称
1951年 (昭和 26年)	滝野中学校開校
1957年 (昭和 32年)	校歌制定
1958年 (昭和 33年)	校章・校旗制定, 体育館落成
1969年 (昭和 44年)	中学校閉校
1971年 (昭和 46年)	小学校閉校, 札幌市滝野自然学園開園

〈利用状況〉

年度	学 校		一 般		計
	学校数	利用者数	団体数	利用者数	
55	98	12,324 ^(人)	27	2,661 ^(人)	14,985 ^(人)
56	97	12,039	33	2,803	14,842
57	92	11,128	18	2,632	13,760
58	83	10,742	30	3,728	14,470
59	78	9,360	34	3,921	13,281

滝野自然学園は昔は学校だったので。明治35年に創立した滝野小学校がそれで、もう80年以上もの歴史があるのです。過疎化による児童の減少に伴い昭和46年3月をもって閉校になり、その年の8月に宿泊訓練施設に生まれ変わりました。

5年生の子供たちが授業の一環として1泊2日の学習をしていくのです。1ヵ月以上も前から先生も生徒も、下見をしたり、ノートを作ったり、役割分担を決めたり準備を始めます。

学園での2日間は、私たち職員によるオリエンテーションのあと、夏はハイキング、オリエンテーリング、登山、冬は歩くスキーと自然の中へ飛び出して行きます。自然は生きた教材として様々なことを教えてくれます。そしてみんなで食べる夕食はまた格別で、カレーライス、ブタ汁、鳥メシなどのおいしい香りで一杯になります。夜になると暗やみの中で神秘的なキャンプファイヤー、キャンドルサービスが待っています。光の中でのゲーム、歌、踊りそしてセレモニー、みんなの心が一つになります。夜はその興奮で眠れず一睡もしない子さえでできます。



(グランドで雪中レクリエーション。)

学園の一日

	10 ⁰⁰	12 ⁰⁰	15 ³⁰	17 ³⁰	19 ⁰⁰	20 ³⁰	21 ³⁰
1日目	入園式	オリエンテーション	野外活動	夕食	キャンプファイヤー	キャンドルサービス	まとめ おやすみ
2日目	6 ⁰⁰ おはよう	7 ³⁰ つどい	9 ³⁰ 朝食	清掃	退園式		

でもそれも楽しい思い出です。

次の日は、朝霧の中での朝の会、朝食、そして自分たちの使ったところの大清掃です。『きたときよりも美しく』がここのモットーです。

2日間の楽しくも短い宿泊学習は終わりです。普段自分たちの身の回りにない自然やおいしい空気、みんなで協力してなし遂げた学習、様々な思い出を乗せてバスは自然学園を後にします。

このほかにも、幼稚園や社会教育団体、そして夏・冬休みには、林間学校や、みどりとおそぼろ自然学園などのキャンプもあり、自然学園は一年中子供たちの歓声が響き渡っています。

〈頑張ってます!!協会職員〉

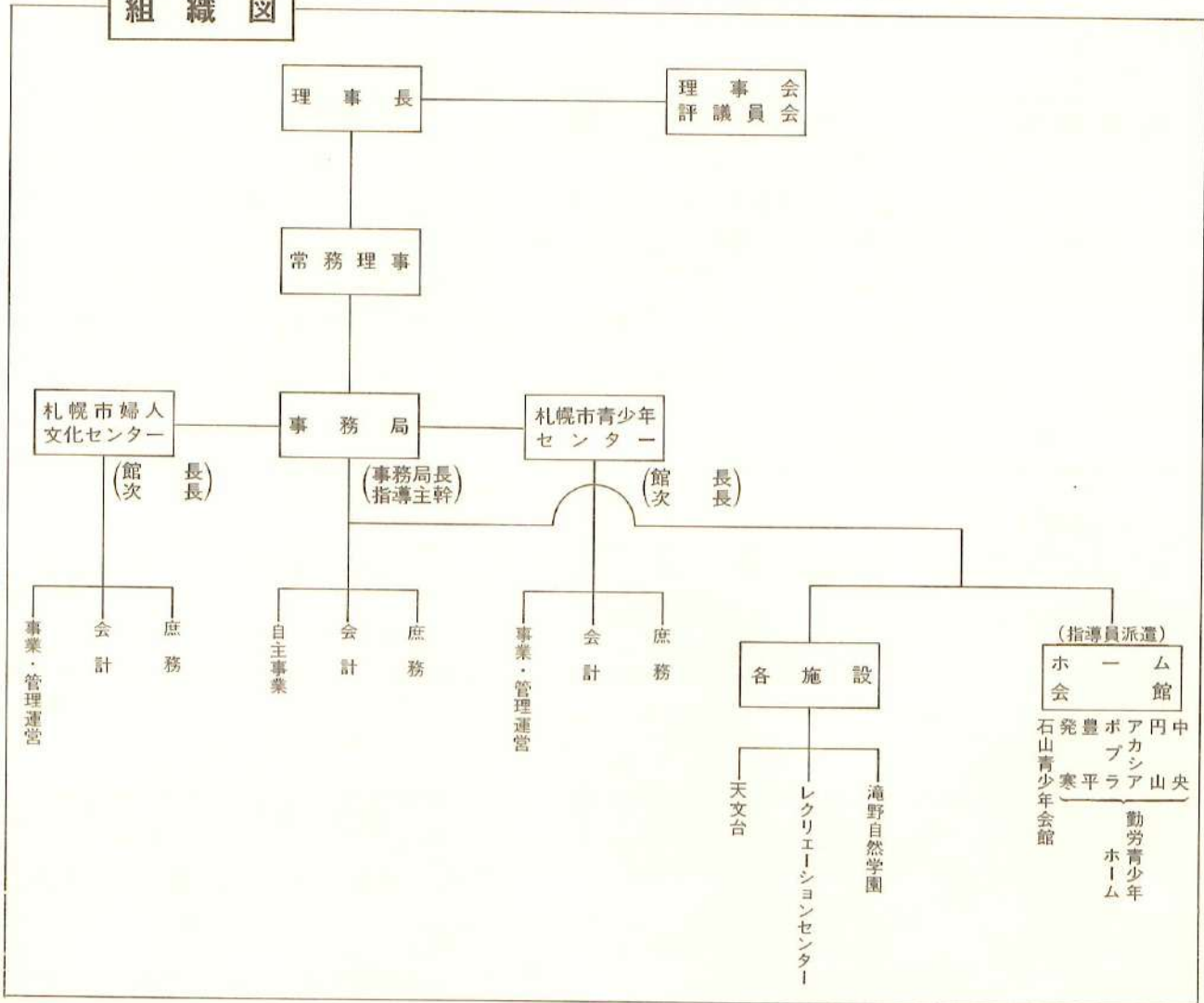
自然学園に協会職員は通常4名勤務し、学校利用の際には、入園式・オリエンテーションに始まって、キャンプファイヤーの井桁組みのお手伝いなど、学園管理だけでなく、ときにはプログラムのお手伝いもします。

職員はみな下のようなキャンプネームを持っています。夏期は自然学園業務だけでなく、滝野すずらん丘陵公園内にある札幌市青少年キャンプ場での小中学生のための業務も加わります。



財団法人札幌市青少年婦人活動協会

組織図



財団法人とは

私たちの住む社会には、一定の非個人的目的のために捧げられた財産の集合が多く、それはだれのものでもなく、一定の公益目的にのみ行使されるべきものなのです。

そして民法は主体のない財産権を認めませんので、この財産に対して、公益を行うもので営利を目的としないこと、主務官庁の許可を得ることの条件の下に、自然人同様の権利と義務を有する資格を与えました。（民法第34条）これが財団法人なのです。

したがって、その目的は公益的の事業であって主務官庁の統治権の作用に關与するので、種々の特権が与えられていますが、同時に内部関係において、役員任免、予算、業務の運営に關して主務官庁の強い監督に服しています。

理事会及び評議員会等に関する事項

◀昭和55年度

(1) 理事会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	そ の 他
昭和55年4月4日	1. 規則及び規程の制定 2. 基本財産の運用方法について 3. 常務理事の報酬額について	} 原案どおり承認	役員及び評議員への辞令交付
昭和55年11月29日	1. 評議員の変更について 2. 昭和55年度予算書変更(補正)について 3. 昭和55年度上半期事業報告について		
昭和56年3月14日	1. 昭和56年度事業計画書(案) 2. 昭和56年度予算書(案)	} 原案どおり承認	

(2) 評議員会

開会年月	議 事 事 項	会議の結果	そ の 他
昭和56年3月14日	1. 昭和56年度事業計画書(案) 2. 昭和56年度予算書(案)	} 原案どおり承認	

◀昭和56年度▶

(1) 理事会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	そ の 他
昭和56年5月14日	昭和55年度事業報告並びに収支決算の報告について	原案どおり承認	監事にも案内
昭和56年8月19日	1. 理事(副理事長)の選任について 2. 監事の選任について 3. 評議員の選出について	} 原案どおり承認	監事にも案内
昭和56年10月29日	1. 役員の変更について 2. 昭和56年度事業計画の変更について 3. 昭和56年度予算書変更(補正)について 4. 昭和56年上半期事業報告について		
昭和57年1月20日	1. 昭和56年度事業計画の変更について 2. 昭和56年度予算書変更(補正)について 3. 寄附行為の一部変更について	} 原案どおり承認	監事にも案内
昭和57年3月30日	1. 昭和57年度事業計画書について 2. 昭和57年度予算書について 3. 役員を選任について 4. 評議員の選出について	} 原案どおり承認	監事にも案内

(2) 評議員会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	そ の 他
昭和56年5月14日	昭和55年度事業報告書並びに収支決算の報告について	原案どおり承認	

昭和56年10月29日	1. 昭和56年度事業計画の変更について 2. 昭和56年度予算書変更(補正)について 3. 昭和56年度上半期事業報告について	} 原案どおり承認 報 告	
昭和57年1月20日	1. 昭和56年度事業計画の変更について 2. 昭和56年度予算書変更(補正)について 3. 寄附行為の一部変更について		} 原案どおり承認
昭和57年3月30日	1. 昭和57年度事業計画書について 2. 昭和57年度予算書について	} 原案どおり承認	

◀昭和57年度▶

(1) 理事会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	その 他
昭和57年5月28日	1. 昭和56年度事業報告書並びに収支計算書の報告について 2. 役員を選任について 3. 評議員の選出について	} 原案どおり承認	監事にも案内
昭和57年10月28日	1. 昭和57年度予算書変更について 2. 財団法人札幌市青少年婦人活動協会寄附行為の一部変更について 3. 役員改選について 4. 昭和57年度上半期事業報告について		
昭和58年3月24日	1. 昭和58年度事業計画書について 2. 昭和58年度予算書について 3. 評議員の選任について	} 原案どおり承認	監事にも案内

(2) 評議員会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	その 他
昭和57年5月28日	昭和56年度事業報告書並びに収支計算書の報告について	原案どおり承認	
昭和57年10月28日	1. 昭和57年度予算書変更(補正)について 2. 財団法人札幌市青少年婦人活動協会寄附行為の一部変更について 3. 昭和57年度上半期事業報告について	} 原案どおり承認 報 告	
昭和58年3月24日	1. 昭和58年度事業計画書について 2. 昭和58年度予算書について		} 原案どおり承認

◀昭和58年度▶

(1) 理事会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	その他
昭和58年 5月27日	1. 昭和57年度事業報告について 2. 昭和57年度収支計算書について	} 原案どおり承認	監事にも案内
昭和58年 6月28日	1. 理事の選任について 2. 監事の選任について		
昭和59年 1月26日	1. 理事の選任について 2. 評議員の選出について 3. 基本財産の運用報告について	} 原案どおり承認 報 告	監事にも案内
昭和59年 3月24日	1. 昭和58年度予算書変更(補正)について 2. 昭和59年度事業計画書について 3. 昭和59年度予算書について 4. 役員(理事及び監事)改選について 5. 評議員改選について		

(2) 評議員会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	その他
昭和58年 5月27日	1. 昭和57年度事業報告について 2. 昭和57年度収支計算書について	} 原案どおり承認	
昭和59年 3月24日	1. 昭和58年度予算書変更(補正)について 2. 昭和59年度事業計画書について 3. 昭和59年度予算書について		

昭和59年度

(1) 理事会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	その他
昭和59年 5月25日	1. 昭和58年度事業報告について 2. 昭和58年度収支計算書について 3. 監事の選任について	} 原案どおり承認	監事にも案内
昭和60年 3月19日	1. 昭和60年度事業計画書について 2. 昭和60年度予算書について 3. 評議員の改選について		

(2) 評議員会

開会月日	議 事 事 項	会議の結果	その他
昭和59年 5月24日	1. 昭和58年度事業報告について 2. 昭和58年度収支計算書の報告について	} 原案どおり承認	
昭和60年 3月19日	1. 昭和60年度事業計画書について 2. 昭和60年度予算書について		

歴代役員

評議員名簿

(備考欄は昭和60年4月1日現在)

第1期 (昭和55年4月1日～昭和57年3月31日)

職名	氏名	備考
理事長	加藤 利昭	56年11月1日より就任 元札幌市市民局長
副理事長	尾崎 行俊	56年8月19日より就任 現札幌市企画調整局長
常務理事	佐々木 順	55年4月1日より就任
理事	石林 清	55年4月1日より就任 現札幌市商工会議所 専務理事
理事	桂 信雄	55年4月1日より就任 現札幌市助役
理事	中村 勝美	55年4月1日より就任 現北海道スキー連盟 副会長
理事	宮本 実	55年4月1日より就任 現北海道教育大学教授
監事	増子 甫	55年4月1日より就任 元北海道経営者協会 専務理事
監事	石田 淳	56年8月19日より就任 元札幌市財政局長
評議員	荒井 徹	55年4月1日より就任 現札幌市総務局 秘書部長
評議員	岩井 泰夫	55年4月1日より就任 現北海道工業大学教授
評議員	坪谷 京子	55年4月1日より就任 教育評論家
評議員	西村 彰	55年4月1日より就任 元北海道BBS連盟会長 (死去)
評議員	三宅 和夫	55年4月1日より就任 現北海道大学教授
評議員	杉本 拓	55年11月29日より就任 現豊平区長
評議員	上田 叔子	56年8月19日より就任 現札幌市婦人団体連絡協 議会会長

評議員	竹内 幸広	56年8月19日より就任 元さっぽろ青少年連合 副常任委員長
評議員	村瀬 浩氣	56年8月19日より就任 現市立札幌病院 事務局長
評議員	渡辺 裕哉	56年8月19日より就任 元青年会議所 副理事長

(中途退任者)

職名	氏名	備考
理事長	赤井 醇	55年11月28日退任 現地崎商事(株)社長
理事長	河崎 和夫	56年10月31日退任 現札幌市助役
副理事長	加藤 利昭	56年8月18日退任 元札幌市市民局長
監事	土井 豊	55年11月28日退任 元札幌市財政局長
監事	足羽 収六	56年8月18日退任 元札幌市財政局長
評議員	後藤 秀郎	55年11月28日退任 現白石区長
評議員	阿津又 義久	56年8月18日退任 元さっぽろ青少年連合 常任委員長
評議員	関口 英一	56年8月18日退任 元札幌市市民局青少年婦 人部長
評議員	高杉 田鶴子	56年8月18日退任 元婦人団体連絡協議会 会長 (死去)
評議員	広川 雄一	56年8月18日退任 元札幌青年会議所 副理事長

第2期 (昭和57年4月1日～昭和59年3月31日)

職名	氏名	備考
理事長	栃内 健男	57年11月1日より就任 元札幌市収入役
副理事長	紺野 哲郎	59年1月26日より就任 現札幌市市民局長
常務理事	佐々木 順	57年4月1日より就任
理事	石林 清	57年4月1日より就任 現札幌市商工会議所 専務理事
理事	上田 叔子	57年4月1日より就任 現札幌市婦人団体連絡協 議会会長

理事	坪谷京子	57年4月1日より就任 教育評論家
理事	中村勝美	57年4月1日より就任 現北海道スキー連盟 副会長
理事	宮本実	57年4月1日より就任 現北海道教育大学教授
理事	遠藤高志	58年6月28日 現札幌市教育長
監事	増子甫	57年4月1日より就任 元北海道経営者協会 専務理事
監事	菊地忠吉	58年6月28日より就任 元札幌市財政局長
評議員	岩井泰夫	57年4月1日より就任 現北海道工業大学教授
評議員	江原撰	57年4月1日より就任 札幌市子ども相談センタ ー相談員
評議員	柴田喜久子	57年4月1日より就任 主婦
評議員	高田悦子	57年4月1日より就任 現札幌市母子寡婦福祉連 合会会長
評議員	長野京子	57年4月1日より就任 童話作家
評議員	三宅和夫	57年4月1日より就任 現北海道大学教授
評議員	村瀬浩氣	57年4月1日より就任 現市立札幌病院事務局長
評議員	山本順子	57年4月1日より就任 現札幌消費者協会会長
評議員	佐藤正啓	57年5月28日より就任 現さっぽろ青少年連合 副常任委員長
評議員	伊藤博昭	58年4月1日より就任 元札幌青年会議所 副理事長
評議員	大野雅弘	58年4月1日より就任 現札幌市教育委員会 社会教育部長
評議員	藤原満昭	59年1月26日より就任 現札幌市白石区総務部長

(中途退任者)

職名	氏名	備考
理事長	加藤利昭	57年10月31日退任 元札幌市市民局長

副理事長	尾崎行俊	57年5月27日退任 現札幌市企画調整局長
副理事長	金子力	59年1月26日退任 現札幌市スポーツ振興事 業団理事長
理事	桂信雄	58年6月27日退任 現札幌市助役
監事	石田淳	58年6月27日退任 元札幌市財政局長
評議員	荒井徹	57年5月27日退任 現札幌市総務局秘書部長
評議員	杉本拓	57年5月27日退任 現豊平区長
評議員	竹内幸広	57年5月27日退任 元さっぽろ青少年連合 副常任委員長
評議員	西村彰	57年6月8日退任 元北海道BBS連盟会長 (死去)
評議員	飯原春夫	59年1月26日退任 現南区副区長

第3期 (昭和59年4月1日～昭和61年3月31日)

職名	氏名	備考
理事長	栃内健男	59年4月1日より就任 元札幌市収入役
副理事長	紺野哲郎	59年4月1日より就任 現札幌市市民局長
常務理事	佐々木順	59年4月1日より就任
理事	石林清	59年4月1日より就任 現札幌市商工会議所 専務理事
理事	上田叔子	59年4月1日より就任 現札幌市婦人団体連絡協 議会会長
理事	遠藤高志	59年4月1日より就任 現札幌市教育長
理事	坪谷京子	59年4月1日より就任 教育評論家
理事	中村勝美	59年4月1日より就任 現北海道スキー連盟 副会長
理事	宮本実	59年4月1日より就任 現北海道教育大学教授
監事	蒲谷亮一	59年5月25日より就任 現札幌市財政局長

職名	氏名	備考
監事	増子 甫	59年4月1日より就任 元北海道経営者協会 専務理事
評議員	岩井 泰夫	59年4月1日より就任 現北海道工業大学教授
評議員	江原 撰	59年4月1日より就任 札幌市子ども相談センタ ー相談員
評議員	大野 雅弘	59年4月1日より就任 現札幌市教育委員会社会 教育部長
評議員	佐藤 正啓	59年4月1日より就任 現さっぽろ青少年連合 副常任委員長
評議員	柴田 喜久子	59年4月1日より就任 主婦
評議員	高田 悦子	59年4月1日より就任 現札幌市母子寡婦福祉 連合会会長
評議員	長野 京子	59年4月1日より就任 童話作家
評議員	藤原 満昭	59年4月1日より就任 現札幌市白石区総務部長
評議員	細川 照市	59年4月1日より就任 現札幌市子ども会連絡 協議会会長
評議員	三宅 和夫	59年4月1日より就任 現北海道大学教授
評議員	藤田 克巳	60年3月19日より就任 現札幌市市民局青少年婦 人部長
評議員	本村 孝幸	59年5月1日より就任 現札幌青年会議所監事
評議員	山本 順子	59年4月1日より就任 現札幌消費者協会会長

563-5311

(中途退任者)

職名	氏名	備考
監事	菊地 忠吉	59年5月25日退任 元札幌市財政局長
評議員	村瀬 浩氣	60年3月19日退任 現市立札幌病院事務局長

職員名簿

(昭和60年4月1日現在)

職名	氏名	備考
事務局長 青少年センター館長	藤谷 握美	事務局, 青少年センター勤務 (札幌市より派遣)
婦人文化センター館長	小野寺奈緒美	婦人文化センター勤務 (札幌市より派遣)
指導主幹	相馬 宏哉	事務局, 滝野自然学園 青少年センター勤務
〃	大築 覚	〃
婦人文化センター次長	堂前 功	婦人文化センター勤務 (札幌市より派遣)
青少年センター次長	太田 憲治	事務局, 滝野自然学園 青少年センター勤務
〃		
専門員	川島 利子	婦人文化センター勤務
〃		
職員	大川 泰尚	事務局, 滝野自然学園 青少年センター勤務
〃	前田 智子	〃
〃	石山 勝則	札幌市天文台勤務
〃	山口 雅弘	婦人文化センター勤務
〃	高木 陽子	〃
〃	天野 安治	〃
〃	寺田 実	事務局, 滝野自然学園 青少年センター勤務

職員	佐々木洋一郎	事務局, 滝野自然学園 青少年センター勤務
〃	田辺 菜美子	〃
〃	葛西 郁子	〃
〃	近野 憲正	婦人文化センター勤務
〃		
嘱託職員	植田 和子	婦人文化センター勤務
〃	高宮 広子	〃
臨時職員	土屋 恵	〃
〃		
嘱託職員	菅原 英二	事務局, 滝野自然学園 青少年センター勤務
〃	佐藤 治	〃
〃	後藤 勝政	〃
〃	菅野 加奈子	〃
〃	三浦 智世美	〃
〃		
嘱託職員	寺尾 光二	滝野自然学園勤務
〃		
嘱託職員	菅原 清	レクリエーションセンター勤務
臨時職員	中尾 嘉彦	〃
〃		

旧職員名簿

退職順
(昭和60年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間
職員	道司 ゆかり	55年4月1日～55年10月18日 事務局勤務
嘱託職員	西塚 令子	56年4月1日～56年4月30日 石山青少年会館勤務
臨時職員	中村 助次	55年6月7日～56年11月20日 レクリエーションセンター勤務(死亡)
嘱託職員	綿屋 信俊	56年8月1日～56年12月22日 豊平勤労青少年ホーム勤務
〃	浅野 泰子	56年4月1日～57年2月3日 ポプラ勤労青少年ホーム勤務
〃	飯田 寛子	55年7月1日～57年3月31日 豊平勤労青少年ホーム勤務
〃	岩尾 良樹	56年4月1日～57年3月31日 アカシア勤労青少年ホーム勤務
〃	瀬賀 栄	55年4月1日～57年3月31日 中央勤労青少年ホーム勤務
〃	谷口 恵	56年4月1日～57年3月31日 円山勤労青少年ホーム勤務
〃	布施 孝枝	55年10月1日～57年3月31日 アカシア勤労青少年ホーム勤務
臨時職員	堀井 ヨシエ	56年11月9日～57年3月31日 滝野自然学園勤務
嘱託職員	松坂 直樹	56年4月1日～57年3月31日 アカシア勤労青少年ホーム勤務
〃	堂本 英基	56年4月1日～57年4月5日 中央勤労青少年ホーム勤務
〃	山口 松二	55年4月1日～57年4月21日 滝野自然学園勤務
〃	佐藤 修司	56年4月1日～57年5月27日 ポプラ勤労青少年ホーム勤務
〃	神山 明彦	57年4月1日～57年8月31日 アカシア勤労青少年ホーム勤務

嘱託職員	宮崎 明美	57年1月21日～57年8月31日 青少年センター勤務
〃	西 秀彦	57年4月1日～57年12月2日 アカシア勤労青少年ホーム勤務
臨時職員	藤澤 由美子	56年11月24日～57年12月11日 婦人文化センター勤務
嘱託職員	菊田 洋子	57年5月14日～58年2月9日 青少年センター勤務
〃	佐々木真紀子	57年4月1日～58年3月1日 中央勤労青少年ホーム勤務
〃	金澤 真知子	57年4月1日～58年3月23日 円山勤労青少年ホーム勤務
〃	内田 陽子	57年4月1日～58年3月31日 円山勤労青少年ホーム勤務
〃	近江 佳代子	57年1月11日～58年3月31日 発寒勤労青少年ホーム勤務
〃	河原崎 始	57年1月1日～58年3月31日 豊平勤労青少年ホーム勤務
〃	斉藤 明嗣	57年4月6日～58年3月31日 豊平勤労青少年ホーム勤務
〃	永尾 総枝	57年4月1日～58年3月31日 豊平勤労青少年ホーム勤務
〃	山下 知子	56年12月21日～58年3月31日 豊平勤労青少年ホーム勤務
〃	福沢 直美	58年4月1日～58年6月27日 豊平勤労青少年ホーム勤務
〃	岸本 和弘	56年10月20日～58年9月1日 石山青少年会館勤務
婦人文化センター次長	白井 乾一 (札幌市より派遣)	56年12月1日～58年12月1日 婦人文化センター勤務
臨時職員	小関 弘昭	58年8月1日～58年12月28日 婦人文化センター勤務
嘱託職員	千葉 未知子	58年2月1日～59年2月27日 青少年センター勤務
臨時職員	山本 真美	59年1月4日～59年3月28日 青少年センター勤務
嘱託職員	熊谷 由美	57年5月23日～59年3月31日 ポプラ勤労青少年ホーム勤務
〃	越井 孝幸	58年4月1日～59年3月31日 発寒勤労青少年ホーム勤務

5年間の予算推移

◀昭和55年度▶

収 入

基本財産運用収入	774,405円
自主事業収入	3,664,628円
受託事業収入	33,319,036円
寄附金収入	318,602円
基本財産収入	10,000,000円
雑 収 入	300,311円
合 計	48,376,982円

支 出

一般管理費	7,539,235円
事業管理費	16,153,442円
自主事業費	2,275,771円
{ 滝野自然学園 }	
{ 管理補助事業費 }	1,386,590円
{ 青少年レクリエー }	
{ ションセンター管 }	
{ 理補助事業費 }	1,194,210円
{ 青少年婦人活動指 }	
{ 導事業費 }	8,921,800円
固定資産取得支出	10,000,000円
予 備 費	0円
合 計	47,471,048円
次期繰越収支差額	905,934円

◀昭和56年度▶

収 入

基本財産運用収入	731,400円
自主事業収入	5,936,400円
受託事業収入	103,874,764円
雑 収 入	560,349円
前期繰越収支差額	905,934円
合 計	112,008,847円

支 出

管 理 費	12,711,672円
職 員 費	29,512,460円
自主事業費	4,326,335円
指導業務費	24,551,749円
婦人文化センター費	31,037,216円
青少年センター費	4,804,808円
施設管理費	3,425,739円
電話加入権取得支出	80,667円
合 計	110,450,646円

次期繰越収支差額 1,558,201円

◀昭和57年度▶

収 入

基本財産運用収入	798,400円
自主事業収入	6,887,300円
受託事業収入	119,234,750円
雑 収 入	2,859,813円
前期繰越収支差額	1,558,201円
合 計	211,338,464円

支 出

管 理 費	16,587,710円
職 員 費	45,700,000円
自主事業費	5,283,006円
指導業務費	33,820,421円
婦人文化センター費	78,218,000円
青少年センター費	27,452,000円
施設管理費	4,031,072円
固定資産取得支出	86,804円
合 計	211,179,023円

次期繰越収支差額 159,441円

◀昭和58年度▶

収 入

基本財産運用収入	591,297円
自主事業収入	7,800,200円
指導事業収入	45,885,770円
施設管理収入	161,837,000円
受取利息	1,448,200円
雑 入	1,278,310円
前期繰越収支差額	159,441円
合 計	219,000,218円

自主事業費	6,233,048円
指導業務費	34,551,997円
青少年センター費	31,222,000円
婦人文化センター費	78,543,000円
諸施設管理費	5,585,019円
固定資産取得支出	993,700円
合 計	225,949,155円

次期繰越収支差額 200,481円

支 出

管 理 費	17,648,203円
職 員 費	47,780,794円
自主事業費	5,994,836円
指導事業費	34,804,695円
青少年センター費	30,173,000円
婦人文化センター費	77,512,000円
諸施設管理費	4,812,441円
合 計	218,725,969円

次期繰越収支差額 274,249円

◀昭和59年度▶

収 入

基本財産運用収入	771,349円
自主事業収入	8,365,500円
指導事業収入	45,466,660円
施設管理収入	167,699,500円
受取利息	1,714,215円
雑 入	1,858,163円
前期繰越収支差額	274,249円
合 計	226,149,636円

支 出

管 理 費	18,870,737円
職 員 費	49,949,654円

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この法人は、主として札幌市の青少年婦人を中心とするグループ活動の振興を図りもって青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の促進を図ることを目的とする。

(設立の根拠及び名称)

第2条 この法人は、民法(明治29年法律第89号)第34条の規定により設立し、財団法人札幌市青少年婦人活動協会と称する。

(事務局)

第3条 この法人は、事務所を北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地5に置く。

第3章 役員及び職員

(役 員)

第8条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事5人以上10人以内(うち1人を理事長、1人を副理事長及び1人を常務理事とする)
- (2) 監事

(役員を選任)

第9条 この法人の役員は、理事会において選任し、その就任については、札幌市長の承認を受けなければならない。

- 2 理事は、評議員と兼ねてはならない。

(役員の仕事)

第10条 理事長は、この法人の業務を総理し、この法人を代表する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐してこの法人の業務を掌理し、理事長に事故あるときはその職務を代理し、理事長が欠員のときはその職務を代って行う。
- 3 常務理事は、理事の定めるところにより理事長及び副理事長を補佐してこの法人の日常の業務を掌理し、理事長及び副理事長とともに事故あるときは理事長の職務を代理し、理事長及び副理事長がともに欠員のときは理事

長の職務を代って行う。

- 4 理事は、理事会を組織してこの法人の業務を議決し、及び執行する。

(理 事 会)

第11条 この法人の理事会は、毎年2回、理事長が招集する。

- 2 前項のほか、理事会を招集する必要があるとき、又は理事現在数の3分の1以上の者から会議の目的とする事項を記載した書面をもって理事会の招集の請求があったときは、理事長は遅滞なく、臨時に理事会を招集しなければならない。

- 3 理事会の議長は、理事長とする。

(定 足 数)

第12条 この法人の理事会は、理事現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意志を表示したものは、出席者とみなす。

(議 決)

第13条 この法人の理事会の議事は、この寄附行為に特別の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(議 事 録)

第14条 この法人の理事会の議事については、議事録を作成し、議長及び出席理事2人が署名押印の上、保存しなければならない。

(監事の職務)

第15条 監事は、この法人の財産及び業務に関し、次の各号に掲げる職務を行う。

- (1) 財産の状況を監査すること。
- (2) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (3) 財産の状況又は業務の執行につき不正の廉があることを発見したときは、これを理事会、評議員会又は北海道教育委員会に報告すること。
- (4) 前号の報告をするため必要があるときは、理事会又は評議員会を招集すること。

(役員任期)

第16条 この法人の役員任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員任期は、前項本文の規定にかかわらず、前任者又は現任者の残任期間とする。

- 3 役員は、その任期満了後においても、後任者が就任するまでは、引き続きその職務を行う。

(役員解任)

第17条 この法人の役員が次の各号の一に該当する場合は、その任期中にかかわらず、理事会において理事現在数の3分の2以上の議決を経、札幌市長の承認を受け解任することができる。

- (1) 心身の故障により、職務の執行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他この法人の役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。

(役員報酬)

第18条 この法人の役員には、理事長及び常務理事を除き、報酬を支給しない。

- 2 理事長及び常務理事の報酬の額その他報酬の支給に関し必要な事項は、理事会の議決で定める。

(職員)

第19条 この法人には、その業務を処理させるため、職員を置き、理事長が任免する。

第4章 評議員会

(設置及び組織)

第20条 この法人には、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、7人以上15人以内の評議員で組織する。

(任命)

第21条 評議員は、この法人の業務の適正な運営に必要な学識経験を有する者を理事会で選出し、理事長が任命する。

(付議事項等)

第22条 この法人の次の各号に掲げる事項については、この寄附行為の定めるところにより、評議員会の議決を経なければならない。

- (1) 寄附行為の変更
 - (2) 基本財産の一部処分
 - (3) 解散及びこれに伴う残余財産の処分
- 2 この法人の次の各号に掲げる事項については、理事長は、あらかじめ、評議員会の意見を聞かなければならない。
 - (1) 毎事業年度の事業計画及び収支予算の作成

又は重要な変更

- (2) 長期借入金の借入れ
 - (3) 前2号に掲げる場合のほか、新たに重要な義務を負担し、又は重要な権利を放棄すること。
 - (4) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
- 3 理事長は、毎事業年度の事業報告書、収支決算書、貸借対照表及び財産目録に監事の意見を付けて、これを評議員会に報告しなければならない。
 - 4 評議員会は、理事長に対し、この法人の業務に関し必要と認める意見を述べることができる。

(評議員会の会議)

第23条 評議員会の議長は、その都度、出席評議員の互選によって選任する。

- 2 第11条(第3項を除く)から第14条までの規定は、評議員について準用する。この場合において、「理事会」とあるのは「評議員会」と、「理事」とあるのは「評議員」と、それぞれ読み替えるものとする。

(任期及び解任)

第24条 評議員の任期は、2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 第16条(第1項を除く)、第17条及び第18条(第2項を除く。)の規定は、評議員について準用する。この場合において、「役員」とあるのは「評議員」と読み替えるものとする。

第5章 事業

(事業)

第25条 この法人は、第1条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グループ活動の指導業務
- (2) 指導者の養成及び登録派遣業務
- (3) グループ活動プログラムの企画立案についての相談業務
- (4) グループ活動に関する調査研究及び資料の発行業務
- (5) 福祉事業等に対するボランティア活動業務
- (6) 青少年婦人関係諸施設の管理業務
- (7) その他前各号に掲げた業務に付帯する業務

第7章 寄附行為の変更及び解散

(寄附行為の変更)

第33条 この寄附行為の変更は、理事会及び評議員会において、それぞれ、理事又は評議員の現在数の3分の2以上の議決をもって決定し、北海道教育委員会の認可を受けなければならない。

第8章 補 則

(細 則)

第37条 この寄附行為の規定を実施するために必要な細則（監事及び評議員会の権限に属する事項を除く。）は、理事会の議決によって定める。

5周年記念誌発行に寄せて

5周年記念誌発行に寄せて

派手さをてらうことなく



札幌市青少年問題研究所

次 長 板 垣 弥之助

私は協会の目玉は何と言っても「グループ・ワーカー養成講座」にあると思う。建議書の中でもワーカー養成の急務を力説している。どんなに立派な青少年のための施設を作っても、訓練されたよき指導者を配置しなければ、仏作って魂を入れないに等しいからだ。しかし口で言えば簡単だが、それはそんな生易しい仕事ではない。報われることの少ない、地味で、なかなか根気のいる仕事である。私も長年同じような仕事をして来たので、身にしみてよくわかる。

いささか手前みそになるかもしれないが、昭和37年ごろ私は当時札幌YMCAの主事をしていて山下政一君と一緒に青少年グループワーク研究会というのを作り、手弁当で子ども会の指導やリーダー養成などの仕事に乗り出した。そして中島児童会館を会場に、月1回青少年ボランティアを養成するための公開セミナーを開いた。現在協会がやっているグループ・ワーカー養成講座のようなものである。そして集まった一騎当千の若者たちにより青年ボランティア協議会というのが結成された。後にグループワーク研究会は青少年育成協会に改組されたが、その後リーダー養成の仕事を市が自前でやるようになったので、47年からは私は現在の青少年問題研究所の仕事に変わり、今日に至っている。

伺えば、現在協会には総勢50名の職員がいて、各現場で青少年育成の仕事に従事されているという。私のころとは規模は比べ物にならない。しかし私が望みたいのはくれぐれも派手さをてらうことなく、あくまでも本来の使命である地道な活動に徹してほしいことだ。そして、さらに新しいよき働き手が続々と誕生することを願ってやまない。

(グループ・ワーカー 養成講座講師)

5周年をひとつの節目として



豊平区市民課

市民課長 関 堂 安 司

青少年婦人活動協会発足5周年心よりお祝い申し上げます。

早いものでもう5年経過しましたが、このうち4年間を一緒に仕事をさせていただいたことになりました。

今まで、青少年の健全育成とか婦人の社会参加に関係する仕事を全くしたことがないため、知らないことばかりで、協会のために役立つというより皆様の足手まといにならないようにと毎日毎日を心掛けてきて、気が付いたらもう4年が経過していたようなわけで、協会の皆様の純粋な奉仕の精神、そしてそれを支えてくれる周囲の人々の暖かい配慮によるものと深く感謝しております。

自分のことより、まず青少年のこと、婦人のこと、どうしたら人間性豊かな人に育って行くか、よい社会づくりができるかと寝食を忘れて意欲的に取り組んで行く態度に敬服していた毎日で、本当に心が洗われる気がいたしました。

協会が行っている自主事業のほか、札幌市関係や民間の諸団体からの依頼による受託事業、並びに青少年センターや婦人文化センター等の管理運営事業は膨大な事業量で、少ないスタッフでよくもこんなに消化しているものだ、また、これらの事業を行政が直接行うのもひとつの方法であるが、行政の場合、それを担当する職員がようやくなれたころに人事異動で変わってしまうため、どうしても一貫した指導や育成がしづらい。それよりグループ・ワークの専門家集団である協会が行政側と連絡をとりながら行っていくのがより効果的である。そのことを理解してこの協会を作った札幌市も、またこれを受けて、これに十分こたえている協会、これが、今後より一層かみ合っでこそ、すばらしい効果が出てくる、そして協会の存在価値があるものと思います。

5周年をひとつの節目として、今後より一層のご発展とご活躍を、また、グループ・ワークの輪がさらに広がって行くことを願ってお祝いの言葉といたします。

(財団設立時事務局長)

— 長いかわり —



札幌市婦人文化センター

館長 小野寺 奈緒美

札幌オリンピックへの派遣が終わって配属された私の職場は青少年対策室でした。

今から13年前になります。

当時、青少年対策室には、毎晩のように青年ボランティアクラブのメンバーが訪れ、ワイワイ、ガヤガヤ楽しく、そして真剣な話し合いが行われていました。いつもそのメンバーの中に、若き日の大築、相馬青年（現、協会主幹）の顔がみえました。

小さい時から子ども会のリーダーをつとめてきた、大学時代にグループ・ワークや社会福祉を学んできた人、ただ子供が大好きで集ってくる青年たち……。

みんなの目は輝やいて、子供会の育成やキャンプでのゲーム指導などに若い情熱を燃やしていることが感じられました。

その後、この青年ボランティアクラブのメンバーの一部は道社協を退職された佐々木順先生を中心に札幌ユース・ワーカー協会を設立。さらに札幌グループ・ワーク協会、そして札幌市青少年婦人活動協会へと発展をみました。

協会になって独自の自主事業のほかに、青少年センター、婦人文化センターの管理運営など、仕事の中味も対応する少年、青年、婦人の層も厚くなりました。

社会の動きもますます激しくなっています。

腕にすがって甘えていた子ども会の小学生もいつの間にか高校生、大学生になって、とにかく時の流れの速さは目をみはるものがあります。目まぐるしい世の中だからこそ、暖かい思いやりや、やさしい心がますます必要になるものと思われまし、それが協会の底に流れる大事なモットーのような気がいたします。

私も56年からこの協会の一員となり、しみじみ長いかわりを感じます。協会がこれからもますます大きく発展されることを望むとともに、この協会の根っことなった青年ボランティアクラブの青年たちの目の輝きや、伸び伸びとした行動力が失われないよう、切に祈ってやみません。

あ と が き



財団法人札幌市青少年婦人活動協会
事務局長 藤谷 握 美

協会5周年を迎えるにあたり、現在までご支援ご協力を賜りました札幌市、市教委並びに関係各位に対しまして、衷心より感謝の意を表するとともに、心から厚くお礼申し上げます。

当協会が、昭和55年4月1日に設立され、5年の節目として記念誌を発刊しようと昨年の10月、記念誌発刊実行委員会が組織されました。5年を振り返りみますれば、あれもこれも掲載したいと編集者一同いろいろな思いにかられました。何分とも限られた紙面故、内容に満足して頂けないむきもあろうかと存じますが、それなりの努力に免じ、ご容赦下されれば幸いです。

当時16人の職員が、今は50人という大世帯となり、青少年婦人に関する諸事業、リーダー養成、施設管理運営等、全員情熱をもって勤務いたしている現状であります。そんな中で「参加して来る子供たちの目が輝いていた」、「よい友達がたくさんできてうれしい、友達っていいな」、「あんなすばらしい活動を自分もやってみたい」等の声が参加した子供から、また親からも聞かれ、また、「市内外各青少年団体の連帯と交歓が強くなった」とか、「これまでの社会教育行政と青少年婦人団体との協力体制が大きく開かれ結びつきが深まった」などの評価もうけられ、当協会の推進してきた諸事業が少なからずや成果をあげていることを知り、その苦労が報われた思いがいたします。青年婦人を中心とするグループ活動のより振興を図り、青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の促進も、明日にむけてさらに一步一步進めて参りたいと思っております。

今後とも各位におかれましては、よろしくご支援ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます次第です。

協会が設立されてからの5年間の活動記録を整理し編集してみて、重たい事実として残ることは、実に多くの人々の熱い心に支えられていたことです。このことは、協会の前史的活動の時代から継続されていることでもあります。

記録を公刊するにあたって、それらの人々の名前をそれぞれの部分に明記すべきであったかもしれません。

しかし、あえてそれをしませんでした。

それぞれの人々の心は、現在の札幌に生活する人々の心と同じであることを信じたからにほかなりません。

それらの人々への感謝は、すべての人々への感謝としてこれからの協会の活動のなかに記憶してゆきたいと念じています。

財団法人札幌市青少年婦人活動協会5周年記念誌

5年の歩み

昭和60年6月1日発行

編集・発行 財団法人札幌市青少年婦人活動協会

060 札幌市中央区北2条西7丁目
(札幌市青少年センター内)

☎ 271-5214

印刷・竹内印刷工業株式会社

